

しもやま
スマイル
プラン
《後期プラン》



令和8年3月
下山地域まちづくり推進協議会

目次

はじめに	1
プランの位置づけ	
1 プランのづくり手・担い手	2
2 プランの構成と期間	2
3 まちづくりにおける役割	3
前期プランの振り返りと後期プランの特徴	
1 前期プラン期間における社会情勢等の変化	4
2 前期プランの取組実績	6
3 後期プランの取組の方向性	7
下山の5年後の将来像	8
みんなでめざす下山のまちづくりの方向性	9
分野別プラン	10
1 定住・移住	11
2 子育て・教育	15
3 健康・福祉	17
4 防災	19
5 伝統・文化	20
6 交流	21
7 観光	23
8 産業	26
9 農地保全	27
10 基盤整備	29
11 生活交通	31

自治区別プラン _____ 32

- 1 阿蔵自治区 _____ 34
- 2 大沼自治区 _____ 36
- 3 三巴自治区 _____ 38
- 4 田平沢自治区 _____ 40
- 5 花山自治区 _____ 42
- 6 羽布自治区 _____ 44
- 7 和合自治区 _____ 46

まちづくりの進め方と進行管理

- 1 まちづくりの進め方 _____ 48
- 2 プランの進行管理 _____ 49
- 3 プランの進行管理において確認する指標 _____ 49

<資料編> 下山の現状と動向

- 1 人口の状況 _____ 50
- 2 観光入込客数 _____ 55
- 3 農業の状況 _____ 56
- 4 事業所の状況 _____ 57
- 5 住民意識 _____ 57

<参考> 策定の経過 _____ 60

はじめに

この「しもやまスマイルプラン」は、私たちが住む下山を子どもたちの世代に引き継ぐために、将来の下山について考え、描いた未来の姿を実現するための行動計画です。

令和3年3月のプラン策定以降、プランで示された地域の将来像と具体的取組に基づきながら、下山地域まちづくり推進協議会や地域団体が中心になって様々な取組を実行し、成果をあげています。

こうした中、一方では人口減少や少子高齢化がさらに進行し、社会情勢も変化してきました。プランを策定して5年が経過したことを契機に地域の課題を改めて認識し、目標とする未来の実現に向けてプランの見直しを行い、「後期プラン」を策定しました。引き続き、一人ひとりが下山の将来に関心を持ち、できる取組から進めていきましょう。

1 まちづくりに大切な2つのこと

『WE LOVE しもやま』

(下山への愛情と誇りを高める合言葉)

下山には、たくさんのLOVEがあふれています。
下山への想いを、みんなで形にしていきましょう！



「WE LOVE しもやま」の
ロゴマーク

周りにある18個の円は、11の分野
と7つの自治区を表しています。

みんなで楽しく未来をつくろう

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、
事業者が行うこと、みんなで一緒に取り組むこと。
同じ方向を見て、共働で楽しく活動しましょう！

2 まちづくりのテーマ

まちづくりのテーマは、将来像にある「笑顔」。下山地域に住む人、関係する人、訪れる人のすべてが、「笑顔（スマイル）」になるため、プランの愛称を「しもやまスマイルプラン」とし、まちづくりを推進します。

プランの位置づけ

1 >> プランのつくり手・担い手

このプランは、下山地域まちづくり推進協議会を中心に策定しました。計画づくりには各自治区や下山地域で活動している団体など、多くの方に参加していただきました。

今回のプラン見直しにあたって、多くの方からご意見をいただきました。引き続きこれらの皆さんと共にプランの実現に向けて取り組みます。

<下山地域まちづくり推進協議会 構成団体>

下山地区区長会	しもやま里山協議会	基盤整備部会
里楽暮住しもやま会	豊田市しもやま観光協会	下山商工会
下山地域営農協議会	地域学校共働本部	

2 >> プランの構成と期間

このプランは、「下山の将来像」を見据えた「まちづくりの方向性」と、将来像に向かって行動するための「具体的な取組」により構成されています。具体的な取組は、下山全体のまちづくりを捉えた「分野別プラン」と、それぞれの自治区において取り組む「自治区プラン」から構成されます。

【分野別プラン】

- 位置づけ：下山地域全体の課題に対し、分野ごとに取り組む施策・事業
- 対象：下山地域全域
- 内容：定住・移住、子育て・教育、健康・福祉など11の分野について、下山全体で取り組むべき施策と具体的な事業を定めています。
- 主体：主に下山地域まちづくり推進協議会の構成団体（里楽暮住しもやま会、下山商工会、各自治区など）や豊田市下山支所などが中心となって、下山全域の課題解決に貢献する柱となる施策を推進します。

【自治区プラン】

- 位置づけ：各自治区の特성에応じた、地域密着型の具体的な行動計画
- 対象：阿蔵、大沼、三巴、田平沢、花山、羽布、和合の7自治区それぞれの地域
- 内容：自治区ごとの状況や課題に応じて、住民や地域団体が主体となって実施する具体的な取組を定めています。
- 主体：各自治区に発足しているまちづくり部会・委員会などが中心となって、プランに基づく自治区のまちづくり事業に取り組みます。

前期プランの振り返りと後期プランの特徴

1 前期プラン期間における社会情勢等の変化

(1) 人口動態

① 人口減少の加速

前期プランの人口推計値と実績値を比較すると、令和7年の実績は推計よりも58人多く減少しており、想定を上回るペースで人口減少が進んでいます。また、前期プランと後期プランの令和12年の推計値を比較すると、減少幅が158人に拡大しています。

平成27年から令和17年の20年間では人口が約1,700人減少し、約3,000人となることが予測され（50ページ参照）、人口減少の加速が強く懸念される状況にあります。

② 年齢構成の変化

生産年齢人口の減少幅は予測よりも小さく、一定の下げ止まりが見られました。一方で、年少人口は予測を超えて減少し、少子化が急速に進行しています。また、世帯数についても予測以上の減少が続いています。

人口の推計値と実績値の比較

	令和7年（2025年）			令和12年（2030年）		
	前期プラン 推計値①	実績値②	増減 (②-①)	前期プラン 推計値③	後期プラン 推計値④	増減 (④-③)
総人口（人）	3,933	3,875	-58	3,579	3,421	-158
年少人口（0～14歳）	352	323	-29	324	239	-85
生産年齢人口（15～64歳）	2,029	2,052	23	1,567	1,650	83
高齢者人口（65歳以上）	1,552	1,500	-52	1,688	1,532	-156
世帯数	1,672	1,640	-32	1,666	1,609	-57

資料：豊田市住民基本台帳による実績値、令和12年は推計

(2) 各統計指標・住民意識

① 観光入込客数の減少

令和6年の下山地域全体の年間観光入込客数は71万人でした。観光入込客数は長期的な減少傾向が続いており（55ページ参照）、地域経済への影響が懸念されます。

② 農業の担い手不足

農地面積の減少と耕作放棄地の高止まりが課題です（56ページ参照）。主因は農業従事者の高齢化と後継者不足にあり、再生可能な農地の復旧と維持保全の仕組みづくりが急務です。

③ 住民意識（生きがいと地域活動）の低下

令和7年の市民意識調査において（57～59ページ参照）、下山地域は「住みよさ」及び「地域への愛着」の評価が令和元年と比較して8%以上上昇し、地域に対する住民の満足度は高まりました。しかし、「生きがいを感じる」人や「地域活動への参加状況」の割合が低下しており、高齢者の孤立化や地域活動への参加意欲の減退が示唆されます。これは、担い手不足による役員負担の増加なども背景にあると考えられ、地域の持続可能性に関わる大きな課題です。

市民意識調査結果

項目（「肯定的」な回答の合計）	下山		増減 (②-①)	参考（令和7年）	
	令和元年 (①)	令和7年 (②)		山村地域	豊田市全体
住みよさ	67.3%	76.0%	8.7%	79.6%	81.7%
定住意識	61.2%	61.0%	-0.2%	69.6%	65.5%
地域への愛着	74.5%	83.0%	8.5%	85.0%	77.5%
生きがい	79.6%	75.0%	-4.6%	78.8%	74.6%
地域活動への参加	70.4%	51.0%	-19.4%	61.5%	40.9%

資料：市民意識調査

2 前期プランの取組実績

① 定住・移住

下山地区情報誌や地域外イベントを通じ、「^に2戸^に2戸^に作戦」等の情報発信を継続しました。また、下山中学校の生徒による「魅力発見ツアー」作りやタイムカプセル事業など、次世代の愛着形成支援を行いました。また、里楽暮住しもやま会を中心に全自治区で空き家の再調査・データベース化を実施しましたが、空き家情報バンクへの登録・成約に至らないケースが多く、物件確保に課題を残しました。

② 観光

新型コロナウイルスの拡大などにより不確実性が増す中においても、観光拠点となる「三河湖テラスこりん」の開業や、世界ラリー選手権を契機としたボランティアの組織化、新体験アクティビティ（森林セラピー、森ヨガ、音楽会、星空観察会など）の実施など、ハード・ソフト両面での受け入れ基盤の強化を着実に推進しました。

③ 農地保全

農作業受委託システムの普及を図りましたが、令和4年度以降の利用実績がなく、システムが機能していない状況です。令和5年度以降は、地域計画における農地状況の「見える化」に注力しました。また、下山地域会議では農地保全をテーマに自治区を中心とした耕作放棄地対策を検討しました。

④ 基盤整備

県・市との協議や現地確認を継続的に実施し、着実に道路整備が進んできました。また、国県道・市道の整備優先順位付けや整備内容の見直しを行い、より早期の整備完了をめざしました。また、TTC-S（トヨタテクニカルセンター下山）の本格稼働を見据えた交通量シミュレーションや計画的な支障木伐採を行い、交通安全と生活利便性の向上を図りました。

⑤ 自治区活動（自治区プラン）





- 外部連携：企業やトヨタ工業学園の地域貢献活動により、人手を要する景観整備や獣害対策を各自治区で計画的・継続的に実施し成果を上げています。
- 共通課題：すべての自治区で「役員・次世代の担い手不足」が深刻化しています。お役の見直しや活動の効率化、組織再編により、自治区運営・役員の負担軽減が急務となっています。

3 後期プランの取組の方向性

(1) 全体方針

下山地域は、人口減少の加速に加え、「住みよさ」「定住意識」が豊田市全体や山村地域と比較して低い水準にあります。後期プランではこの現状を打破するため、生活環境の不満要因を解消するとともに、魅力あるまちづくり、景観づくりを進めます。また、TTC-Sなどの新たな地域資源や外部連携によるポテンシャルを活かし、交流人口の拡大と地域活力の向上をめざします。

(2) 重点的な取組の方向性

項目	後期プランで取り組む方向性
定住・移住 	「住みよさ」と「定住意識」の向上 生活利便性の向上と定住・移住施策の充実により、特に若年層・子育て世代の住みよさの向上を図ります。
観光 	次世代が地域に誇りをもてる観光まちづくり 体験プログラムの開発や環境整備による地域資源の磨き上げや、戦略的な情報発信を関係者が主体的に取り組むことで観光まちづくりを推進します。
農地保全 	省力的な管理手法の導入と新たな担い手の確保 耕作放棄地の解消に向け、地域外人材も含めた担い手の育成や、粗放的な農地管理（手のかからない管理）を推進します。
基盤整備 	生活道路の計画的整備と安全対策の推進 住民生活に直結する道路の整備・補修を着実に進めるとともに、交通量変化に対応した安全対策を行います。
自治区活動 (自治区プラン)	多様な主体が参画できる持続可能なコミュニティづくり 若者や移住者をターゲットに、負担の少ない多様な活動機会を創出し、コミュニティの担い手の裾野を広げます。

下山の5年後の将来像

【将来像】

子どもの声が聞こえ、 笑顔で暮らせるまち しもやま

5年後の下山は、どうなっているだろう？

子どもの“わいわい”とした元気な声がいつも聞こえるといいな…

お年寄りのやさしい“ほっこり”した笑顔があふれているといいな…

夢が実現できる“わくわく”する下山になるといいな…

地域の人に応援してくれたり、助けてくれたりして“ほっと”できるといいな…

一人ひとりが考えながら、できることを楽しく“こつこつ”と取り組み、みんなで下山を盛り上げましょう

5年後の暮らし

- ・ほどよい距離感の近所づきあいでありながら、助け合いにより安心を感じられており、高齢者からも子どもからも笑顔があふれています。
- ・子どもを地域の宝として、こども園、小中学校と住民が協力して子どもを見守っています。そして、子どもの通学風景や友だちと元気に遊ぶ姿が見られます。
- ・下山で暮らしたい移住者の受け入れを各自治区が行い、子どもも増えています。そして、ずっと住んでいる人と移住者の人とが協力し合うことにより、地域が活気づいています。

5年後の地域

- ・人口が減ったり高齢化が進んだりしても、地域の状況を考えながら、子どもから高齢者までみんなで協力し、自立した地域活動が楽しく続けられています。
- ・様々な人や団体の協力を得ながら、地域の整備や農地の手入れが行われ、みんなが自慢できる美しい風景が保たれています。
- ・地域の伝統、お祭りなどの行事が子どもや孫の世代に大切に引き継がれています。

5年後の私たち

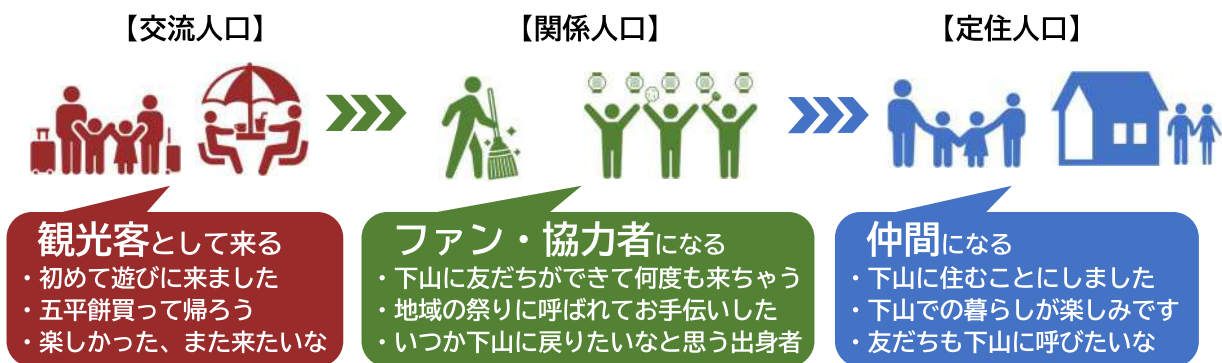
- ・下山のあちこちで、いろいろな人が地域を元気にする取組に挑戦しています。また地域の人がその挑戦をみんなで応援しています。
- ・若者が積極的に意見を言ったり提案をしたり、また年長者もこれまでの経験を若者に伝えたり助言したりすることにより、伝統を活かしながら新しい取組が地域一丸となって行われています。
- ・下山に住む人、下山で働く人など、下山に関わる人々が、下山を今よりもっと好きになっています。

みんなでめざす下山のまちづくりの方向性

下山のこれから5年間のまちづくりは、3つの方向性により進めます。

1 下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」の減少を抑える取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。



2 住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による地域活動を次世代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

3 「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもから高齢者まで、誰もが安心して生活できる環境をつくります。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境をつくります。

分野別プラン

子どもの声が聞こえ、笑顔で暮らせるまちしもやま

[主な担当団体]

1 定住・移住 ～下山を担う仲間を増やそう～	施策1	下山の暮らしの魅力向上と情報発信の強化	里楽暮住しもやま会 各自治区 地域学校共働本部 豊田市下山支所	
	施策2	空き家・空き地の発掘、利活用の促進		
	施策3	地域ぐるみの移住者受け入れ体制の整備		
	施策4	下山への愛着の形成		
	施策5	多様な方法での宅地供給		
	2 子育て・教育 ～子どもはみんな育てよう～	施策6	地域で支える子育て環境の充実	下山交流館 子育て支援センター 社会福祉協議会 コミュニティ会議 地域学校共働本部 各小中学校
		施策7	地域と連携した教育の推進	
	3 健康・福祉 ～身体も心も元気で暮らそう～	施策8	下山の健康づくり・地域福祉の推進	コミュニティ会議、社会福祉協議会、豊田市健康づくり応援課、スポーツクラブ
	4 防災 ～災害に負けない地域をつくろう～	施策9	災害に備えた地域づくり	自主防災会 まちづくり推進協議会
	5 伝統・文化 ～下山の誇りを受け継ごう～	施策10	地域の伝統・文化の魅力発信と継承	郷土史を学ぶ会 豊田市下山支所 各保存会等
	6 交流 ～顔の見える地域をつくろう～	施策11	地域内の交流促進	コミュニティ会議 下山交流館 豊田市下山支所 各自治区 各団体
施策12		地域外との交流促進		
7 観光 ～地域の良いところを発信しよう～	施策13	既存資源の磨き上げ	事業者 豊田市しもやま観光協会 豊田市下山支所	
	施策14	戦略的な情報発信		
	施策15	スポーツツーリズムの確立		
	施策16	組織力強化		
8 産業 ～下山の産業をみんなで支えよう～	施策17	既存の産業の継承と新しい産業の創出	下山商工会 豊田市しもやま観光協会 豊田市下山支所	
9 農地保全 ～美しい農村風景を守ろう～	施策18	農地の適正管理の推進	下山地域営農協議会 各自治区	
10 基盤整備 ～暮らしを守る道路をつくろう～	施策19	道路整備	基盤整備部会、愛知県、豊田市地域建設課、各自治区、豊田市下山支所	
11 生活交通 ～安心して利用できる地域交通をつくろう～	施策20	誰もが安心して利用できる持続可能な地域交通の実現	下山地区公共交通協議会 豊田市下山支所	

1

定住・移住

～下山を担う仲間を増やそう～



【現状と課題】

- ・平成23年に発足した定住推進組織「里楽暮住しもやま会」を中心に、定住・移住の推進に向けた様々な取組を行っています。定住意識の向上や空き家の発掘、移住者の確保などの活動を着実に進めているものの、定住人口の減少は続いています。
- ・出生数の減少に加えて、進学、就職、結婚を機会とした転出が多く、子どもや若年世代の減少が著しくなっていることから、単に人数を確保するだけではなく、世代バランスを適切にするため、子育て世代を増やす取組が必要となっています。
- ・下山の地域性を気に入って空き家等に入居する移住世帯も増えており、この流れを定着させていくことが求められます。

【主な施策と取組】

施策1 下山の暮らしの魅力向上と情報発信の強化

めざす状態

子育て世代を主なターゲットとして、通学、子育て、買い物など、下山での日常生活に関する暮らしの情報が発信され、定住や移住を考える人の参考になっています。

取組事業




	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	下山の暮らしが見える情報発信の整備 【里楽暮住、下山支所】	チラシや冊子などの紙媒体やSNSや動画などの電子媒体を活用し、下山の暮らしの魅力を発信します。
事業② 【継続】	定住委員等の情報発信力の向上 【里楽暮住、下山支所】	地域内には、定住・移住に関する住民意識を高めるPR活動を実施し、地域外には、空き家・空き地物件のPRを行います。
事業③ 【継続】	地域内の景観整備 【各自治区】	地域の美しい景観を維持するため、環境美化活動や植栽活動などを行います。

施策2 空き家・空き地の発掘、利活用の促進

めざす状態

住民に使われなくなった住宅や土地が速やかに提供され、地域の定住・移住促進のために活用されています。

取組事業


	事業名及び主な取組団体	事業概要
	事業① 【拡充】 空き家・空き地情報の整理及び活用 【里楽暮住、各自治区、下山支所】	①定期的な調査により、空き家・空き地情報データベースを更新します。 ②地域一体で空き家の登録促進に向けて連携するための仕組みをつくります。
	事業② 【新規】 空き家・空き地の登録促進 【里楽暮住、下山支所】	空き家・空き地情報データベースを基に、近隣住民等へのヒアリングや空き家所有者への働きかけを行います。
	事業③ 【新規】 空き家の成約促進 【里楽暮住、下山支所】	①片付けイベントを実施します。 ②空き家の状態調査を実施します。
	事業④ 【新規】 空き家予備軍へのアプローチによる登録促進 【里楽暮住、下山支所】	①民生委員や福祉関係者との連携により、相続世代へアプローチします。 ②敬老会など同世代が集まる場で、空き家活用の事例紹介などの講話会を開催します。

施策3 地域ぐるみの移住者受け入れ体制の整備

めざす状態

移住してきた人が地域の生活やコミュニティに早くなじめるように、地域ぐるみで生活情報を提供し、困りごとの相談に乗っています。また、特に子育て世代の移住者の受け入れに自治区が積極的に取り組んでいます。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
	事業① 【継続】 移住者を受け入れる住民意識の醸成 【里楽暮住、各自治区】	里楽暮住委員や地域住民を対象にした移住対策勉強会を実施します。希望地域には、住民意識アンケートを実施します。
	事業② 【継続】 移住者サポート体制の整備 【里楽暮住、各自治区】	移住者との交流会の実施など、移住者に対する生活サポートの仕組みをつくります。
	事業③ 【新規】 移住者の自治区運営の担い手育成 【里楽暮住、各自治区、下山支所】	自治区運営の見直しと効率化を進め、自治区のお役の負担を軽減し、誰もが運営に参加しやすい体制を整備します。

施策4 下山への愛着の形成

めざす状態

「WE LOVE しもやま」意識が醸成され、下山に住み続けたい、住んでみたいと思う人が増えています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	地域の愛着形成 【里楽暮住、地域学校共働本部】	①「WE LOVE しもやま」グッズを作成し、グッズを活用したPRを実施します。 ②中学生との意見交換会を開催し、中学生の意見を反映させた事業を実施します。

施策5 多様な方法での宅地供給

めざす状態

下山のいたるところで、様々な方法で宅地や空き地が提供・活用されています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	2戸2戸作戦宅地分譲地の販売促進 【下山支所】	2戸2戸作戦宅地分譲地を積極的にPRし、販売促進をします。
事業② 【継続】	居住促進地区の農振除外緩和制度の活用 【下山支所】	居住促進地区における農振除外緩和制度を所有者等に周知し、宅地活用を推進します。

※各施策の取組事業は、【 】に記載する団体が主な担い手になって実施しますが、その他の団体やグループによる創意工夫あふれる取組も期待しています。

※住民のみなさんも、一人ひとりが下のような取組をしてみてください。

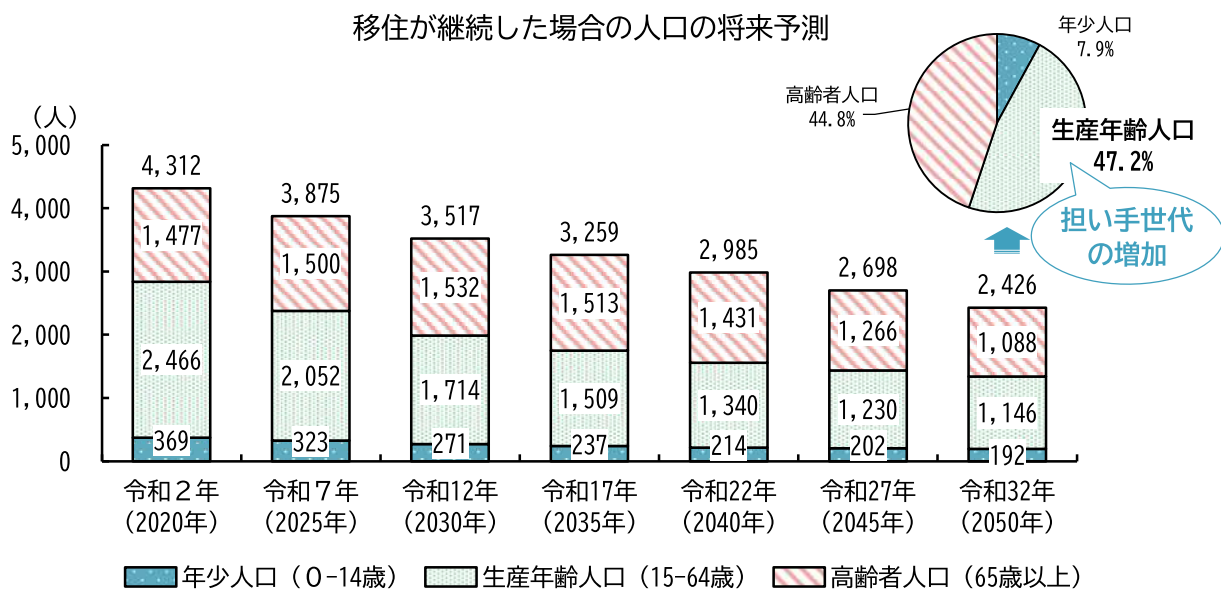
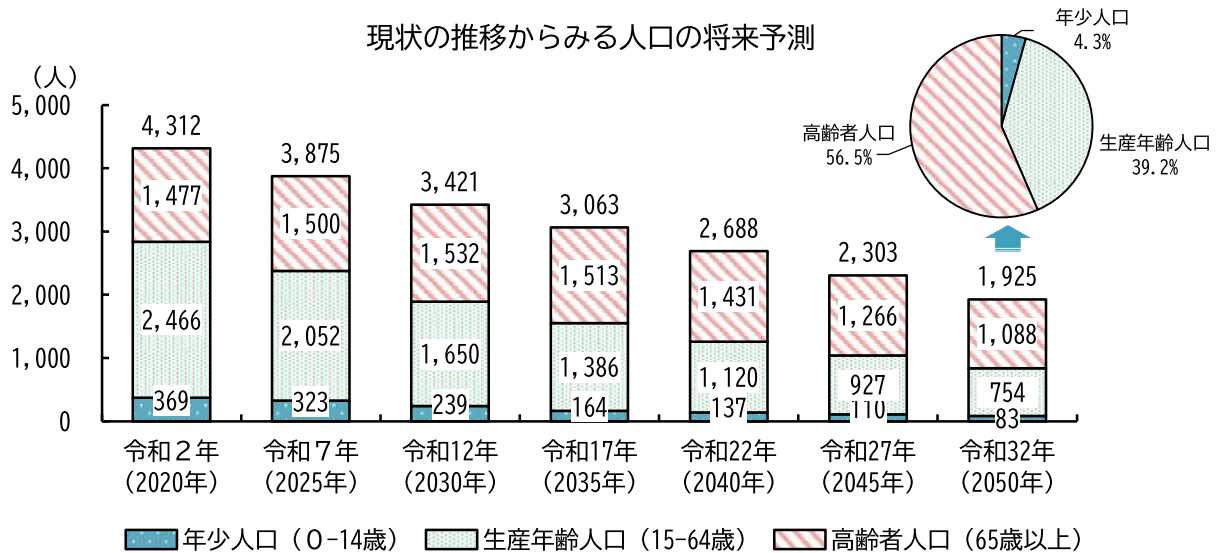
◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 下山の暮らしの魅力を知り合いに伝えます。
- 下山の魅力について、友達や家族と話してみます。
- 自分の家の将来を家族と話し合います。
- 近所に移住してきた家族がいたら、声をかけます。

◆定住・移住促進の効果

定住・移住を促進し、継続的に若い世代が移住すると、人口減少が抑制されるとともに、人口構成の回復が期待できます。

例えば、夫婦と子どもによる世帯が5年間で計32世帯（年間1自治区1世帯程度として想定）が継続的に下山地域に移住した場合、以下の通り生産年齢人口の増加が見込まれます。



※自治区別の将来予測については51～54ページに掲載しています。

2 子育て・教育 ～子どもはみんな育てよう～



【現状と課題】

- ・子どもの人口、子育て世代の人口の減少が続いていますが、就労や様々な事情で乳児保育の希望が増えています。多くの子どもがこども園に入り、交流館や子育て支援センターに遊びに来る子は少なくなっています。
- ・子どもがのびのびと育つ環境を確保するとともに、育児や子育てに関して地域で支えあう環境や仕組みをつくる必要があります。
- ・少子高齢化が進み、この先、小中学校の生徒数が激減することが見込まれます。
- ・児童、生徒数が少ないことで、きめ細かな教育ができる一方、集団生活の体験や学校行事、課外活動への制約が生じています。
- ・児童、生徒数の減少に伴う様々な制約や課題に対応するため、地域全体で学校や子どもの教育を支えていく仕組みを考えていく必要があります。

【主な施策と取組】

施策6 地域で支える子育て環境の充実

めざす状態

地域住民のみんなが子どもや親を見守っており、子育て家族にとってこれからも暮らし続けたい下山が実現しています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	子どもの遊び場、親子の交流の場の確保 【子育て支援センター、下山交流館、社会福祉協議会】	子育て支援センターや交流館の子育て交流スペース、社会福祉協議会に子どもの遊び場及び親子の交流の場を確保し、充実を図ります。
NEW 事業② 【新規】	子ども（中学生以下）を対象としたイベントの開催 【コミュニティ会議、下山交流館、社会福祉協議会】	①こども商店街や体験、ゲームなど、子どもが思いっきり遊べるイベント「あそびまCOOL」を開催します。 ②小中学生を対象に長期休みの間に地域住民や下山出身者を講師に招いて子どもが楽しめる行事「しもっこ広場」を開催します。

施策7 地域と連携した教育の推進

めざす状態

小中学校と地域が協力して下山の子どもたちの教育に取り組むことにより、学校の授業や行事が円滑に行われ、企業との連携や地域の様々な資源も教育に活用されています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	地域団体を講師とした勉強会、意見交換会の実施 【地域学校共働本部、各小中学校】	里楽暮住しもやま会や社会福祉協議会など地域団体を講師に迎え、勉強会や意見交換会を開催します。
事業② 【継続】	職場体験、地域イベントを通じて地域を体験する機会の創出 【地域学校共働本部、各小中学校】	地域行事へのボランティア参加を推進します。
事業③ 【継続】	地域の課題解決の取組の推進 【地域学校共働本部、各小中学校】	小中学校の通学に関わる課題等を整理し、課題解決の取組を実施します。

【子育て・教育に関連して地域で行われている取組】

取組
<ul style="list-style-type: none"> ・下山の未来を考える下山こども未来会議【下山こども未来プロジェクト】 ・子育て世帯の交流の場づくり【しもやまみんなの学び舎*たんぼぼ】 ・おゆずり会や料理や懇談会を通じた情報交換による交流【かれんママ】 ・モデルロケットを通じた子どもの健全育成【しもやまロケットプロジェクト】 ・学校行事支援、授業支援、本の読み聞かせ、環境整備等【地域学校共働本部】 ・めざす子ども像「下山を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども」に向けた取組【下山中学校区コミュニティ・スクール連絡会議】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 近所の子どもや子育て家族に、日頃からあいさつや声かけをします。
- 子どもの通学や遊びを見守ります。
- 子育ての知恵や工夫を子育て家族に伝えます。
- みんなが子どもや学校に関心を持って、学校運営に協力しています。
- 将来の教育環境を見据えて多世代・他業種と関わり、将来の担い手づくりを考えます。

3 健康・福祉 ～身体も心も元気で暮らそう～



【現状と課題】

- ・ 特定健康診査や後期高齢者医療健康診査の受診率について、下山地域は市平均より高く維持できています。
- ・ 高齢者の人口が増加しており、今後は特に75歳以上の後期高齢者の増加とともに、高齢者のひとり暮らし、高齢者の夫婦のみの世帯の増加が予想されます。
- ・ 高齢者も地域の中で安心して暮らすことができる環境が必要です。このため、高齢者の生活を地域ぐるみで支え、見守る仕組みづくりが求められます。
- ・ いつまでも健康で自立した生活を送る「健康寿命」を伸ばすことが必要です。

【主な施策と取組】

施策8 下山の健康づくり・地域福祉の推進

めざす状態

高齢者が地域の中で健康づくりや生きがいづくりに取り組んでいます。また、近所の様々な生活課題を抱える人をみんなで見守るとともに、老若男女のすべての住民が互いに「支える」「支えられる」関係になり、安心して住み続けられる環境が整っています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【拡充】	健康づくりの意識向上・推進 【コミュニティ会議、社会福祉協議会、健康づくり応援課】	①「やまの保健室プラスサロン」を実施し、健康づくりを進めます。 ②イベントや自治区等で健康講座や健康チェック測定を実施します。 ③地域の健康づくりを応援するボランティアを育成します。 ④福祉コンサートを開催します。
事業② 【継続】	運動習慣の定着 【コミュニティ会議、スポーツクラブ、健康づくり応援課】	①体育大会などのスポーツイベントの実施や、様々なスポーツの機会を提供します。 ②地域で開催される「元気アップ教室」に講師を派遣して支援します。
事業③ 【継続】	高齢者世帯の把握 【社会福祉協議会】	民生委員等関係団体との情報交換により、2人暮らし高齢者世帯を把握し、認知症機能低下防止や介護予防につなげます。
事業④ 【継続】	地域住民の福祉理解の促進 【社会福祉協議会】	中学生のボランティア体験や地域でのボランティア活動を通して、地域福祉の担い手を育成します。
事業⑤ 【継続】	地域の居場所づくりの支援 【社会福祉協議会】	地域ふれあいサロンなど地域での居場所づくりの活動を支援するとともに、地域で始めようとする新たな居場所づくりを支援します。

【健康・福祉に関連して地域で行われている取組】

取組

- ・地域ふれあいサロンの開催【下山地内 21 か所】
- ・元気アップ教室終了後の自主グループ活動【下山地内 6 か所】
- ・「幸齢化」をめざすためウォーキングイベント【花山自治区振興部健康促進隊】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 近所の高齢者や障がいを持つ人や生活に困っている方を地域で見守っています。
- 近所の人々の生活の小さな困りごとには、できる範囲で手伝っています。
- 近所で困っていると相談があったら、必要に応じて関係機関につなげて解決しています。
- 近所の人同士でちょっとした困りごとをお手伝いし、いつまでも在宅で生活が続けられます。

4 防災 ～災害に負けない地域をつくろう～



【現状と課題】

- ・大規模地震の発生確率が高まっているとともに、台風や大雨も増えており、災害への備えをより一層充実させることが求められます。
- ・下山全体で災害に強い地域づくりを行うとともに、安全な避難場所や避難経路の確保、ハザードマップの普及・活用、災害発生時の連絡体制づくり、支援が必要な人への対応など、地域主体での防災対策の強化も必要となっています。

【主な施策と取組】

施策9 災害に備えた地域づくり

めざす状態

日頃から災害に対する備えを地域ぐるみで行い、災害発生時の連絡体制や避難誘導、支援を要する人の対応などが円滑に行われ、人や家屋の被害を最小限に抑えています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	防災情報の伝達強化 【自主防災会、まちづくり推進協議会】	防災ラジオを活用して、防災情報を効果的に住民等に伝達します。
事業② 【継続】	防災リーダーの養成 【自主防災会、まちづくり推進協議会】	防災リーダーの専任への移行により自主防災会の人材を強化し、情報交換会を実施します。
事業③ 【継続】	災害対策情報の集約 【自主防災会、まちづくり推進協議会】	防災訓練時に人材、資器材の確認等を行うほか、災害時に活用できる人材や資器材に関する情報を収集し、住民等に周知します。
事業④ 【新規】	電子化防災マップの普及 【自主防災会】	スマホアプリで見られる電子防災マップを普及します。



【防災（防犯）に関連して地域で行われている取組】

取組

- ・自主防災活動の支援【消防団第8方面隊】
- ・登下校時及び夜間における防犯パトロールの実施【下山パトロール隊】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 地域の防災訓練に参加します。
- ハザードマップなどを活用して地域の災害危険性を認識し、災害に備えます。
- 災害発生時には自分や家族の身を守るとともに、近所の支援が必要な人のサポートも行います。

5 伝統・文化 ～下山の誇りを受け継ごう～



【現状と課題】

- ・阿蔵地域念仏踊り、大沼雅楽、下山村の三河万歳、黒坂の祭り囃子（巴太鼓）をはじめとして、下山では歴史的にも価値の高い多くの伝統芸能が行われています。また各地域には古くから伝わる民話があり、発掘・伝承活動も行われています。
- ・伝統芸能のデジタルアーカイブ（記録映像）作成や郷土資料館で作品展示を行い、下山地域の伝統芸能を地域内外に向けて周知しています。
- ・伝統芸能はこれまで地域が中心となって継承されてきましたが、担い手の高齢化により、次世代への継承が課題となっています。各地域の伝統芸能や民話の価値を住民等が共有し、下山全体で継承していくことが求められます。

【主な施策と取組】

施策10 地域の伝統・文化の魅力発信と継承

めざす状態

各地域の伝統芸能の価値や魅力が再認識され、若い世代も関わりながら、地域ぐるみで継承されています。また、地域外の人々にも魅力を発信し関心や交流を広げることで、関係人口の拡大につながっています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	伝統芸能の継承 【下山支所、各保存会等】	市が指定する4つの無形民俗文化財について、デジタルアーカイブを完成させます。
事業② 【継続】	郷土資料館の見直し 【郷土史を学ぶ会、下山支所】	香恋の館の郷土資料館の展示を、下山ならではの文化を発信できる内容に見直し、発信していきます。
事業③ 【拡充】	民話の伝承 【下山支所】	①紙芝居を作成して、下山の民話を子どもたちに語り継ぎます。 ②史跡巡りツアーを開催し、体験を通して歴史を学ぶ機会を創出します。

【伝統・文化に関連して地域で行われている取組】

取組

- ・民話の探訪【各小学校】
- ・阿蔵地域念仏踊り、大沼雅楽、下山村の三河万歳、黒坂の祭り囃子の実施【各保存会】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 念仏踊り、大沼雅楽、三河万歳、祭り囃子などを観に行ってみます。
- 地域の伝統行事や民話について、価値を再認識して、次世代に語り継いでいきます。
- 伝統行事等に参加したことについて、SNSを通じて地域内外へ魅力を発信します。

6 交流 ～顔の見える地域をつくろう～



【現状と課題】

- ・人口減少や高齢化が進むにつれ、イベントの参加者が減少しているとともに、地域活動の担い手不足が課題となっています。
- ・「わくわく事業」等の活動を通じて、住民同士が集まり、交流する機会を継続的に創出することができます。
- ・人口が減少する中でも、各自治区で夏祭り等の恒例行事は継続的に開催することができ、転出者を含め多くの地元住民が交流する機会があります。
- ・地域外のボランティアに手伝ってもらい、地域内外の人が交流を図りながら地域活動を行っています。

【主な施策と取組】

施策11 地域内の交流促進

めざす状態

同世代・多世代の住民につながりがあり、住民同士の交流が活発に行われ、子どもから高齢者まで、みんなが楽しく過ごしています。また、地域外への転出者も参加する夏祭り等の行事が継続的に開催されています。

取組事業



	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	地域行事の開催 【コミュニティ会議】	下山全体での地区体育大会やしもやまスマイルフェスタなどの行事を継続的に実施します。
事業② 【継続】	新たな活動団体の支援 【下山支所、新規活動団体】	新たな取組を実施する団体に対して、制度や既存団体などの情報提供を行い、活動を支援します。
事業③ 【拡充】	情報コーナーでの情報発信 【下山交流館、下山支所】	下山交流館のロビーに設置した大型モニター等でコミュニティ会議や下山交流館、地域団体などの情報発信をします。

施策 12 地域外との交流促進

めざす状態

環境整備などの環境美化活動やお祭りなどの人手不足で継続が困難な活動について、地域外からの参加や支援を受けて地域活動を維持します。また、地域外の人と交流を図り、地域の活性化と関係人口の増加につなげます。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
 事業① 【新規】	地域外ボランティアの受け入れ 【各自治区、各団体】	人手不足となった地域活動に地域外のボランティアの支援・参加を受け入れ、交流を図りながら地域活動を維持します。
 事業② 【新規】	下山と都市との交流 【各自治区、各団体】	地域外の人も参加できるイベントを企画・実施し、関係人口の増加を図ります。

【 交流に関連して地域で行われている取組 】

取組

- ・ 企業やトヨタ工業学園による地域貢献活動の受入れ【各自治区】
- ・ 下山スポーツフェスタの開催【下山スポーツフェスタ実行委員会】
- ・ 子どもから高齢者まで楽しめる地域広場の整備、交流イベントの開催【八沢の丘公園整備委員会】
- ・ 下山を好きになってもらう下山体験教室の開催【NPO法人下山わくわくファーム】
- ・ 地域活性のために空き家再生事業で関係人口を増やそう！【想家PROJECT】
- ・ いぬっこ図鑑、TAKIVi山村振興フェス、肉住 ほか【ビレファン】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 地域イベントの開催や運営にできる範囲で協力します。
- 転出した家族や世帯に声をかけ、地域イベントへの参加を呼びかけます。
- 地域のお祭りやイベントに参加し、多くの人や違う世代の人と話をしてみます。

7 観光

～地域の良いところを発信しよう～



【現状と課題】

- ・下山地域は三河湖や三河高原などの自然資源、五平餅や下山茶などの特産品、香恋の館や手作り工房山遊里などの観光施設といった、豊富な観光資源を有しています。
- ・一方、人口減少や高齢化、耕作放棄地や空き家等の増加により、観光地としての魅力が低下し、事業者の減少や経営環境の悪化が懸念されます。
- ・県内でも有数の観光地として誇りを持って次世代につなげるため、現役世代が一丸となって観光まちづくりを通じて地域課題解決と地域活性化を実現する必要があります。

【主な施策と取組】

観光分野の推進方針（第2期しもやま観光戦略プラン）

次世代につなぐ：次世代の事業者がしもやまの生活や文化に誇りを持ち、笑顔で生き生きと活躍できるための取組とします。

観光事業者の団結：地域の事業者それぞれが自分事として観光まちづくりに取り組むために、広く意見を取り入れられ、地域一体となって推進する体制を構築します。

コンセプト『 冒険 探検 発見 しもやま 』

施策13 観光資源の磨き上げ

めざす状態

既存資源の整理・磨き上げを行うとともに、新規資源の創出を行い、下山地域の魅力が伝えられる状態となっています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【拡充】	魅力のPR 【事業者、観光協会、下山支所】	下山の魅力、季節ごとの花・食・行事・景観などを整理し、地域内で共通言語化します。
事業② 【拡充】	ビューポイントの整備 【事業者、観光協会、下山支所】	地域の良い景色を整備し、散策や写真撮影の機会を創出します。

施策 14 戦略的な情報発信

めざす状態

情報発信体制を構築し、利用者のニーズに合った情報を積極的に発信しています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【拡充】	デジタルでの発信 【事業者、観光協会、下山支所】	SNS等による情報発信力を強化し、より多くの人に情報を届けます。
事業② 【拡充】	リアルでの発信 【事業者、観光協会、下山支所】	出展機会を創出し、地域の魅力を五感で伝えます。

施策 15 スポーツツーリズムの確立

めざす状態

三河湖左岸道路整備を契機として、三河湖を中心に下山のスポーツツーリズムの受入体制が整備され、スポーツフィールドとして活用されています。

取組事業



	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【新規】	受入体制の整備 【事業者、観光協会、下山支所】	合宿やイベント先として選ばれるための、円滑な地域内連携体制を構築します。
事業② 【新規】	スポーツフィールドとしてのPR 【事業者、観光協会、下山支所】	ランニング等のスポーツフィールドとして、大学や企業の運動部等に向けて、スポーツイベントや合宿のPRを行います。

施策 16 組織力強化

めざす状態

事業者を中心に観光協会、行政が協力し合い、情報共有をはじめ観光戦略プランの推進に必要な地域内の連携体制が構築されています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【拡充】	観光戦略プランの推進 【事業者、観光協会、下山支所】	観光戦略プランを推進するための意見交換や情報共有の体制を構築します。

【 観光に関連して地域で行われている取組 】

取組

- ・世界ラリー選手権ラリージャパンに関する活動【しもやまラリー実行委員会】
- ・三河湖の自然を理解して楽しむ事業【三河湖の自然と環境を考える会】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

○親戚や友人が下山に来た時には、下山の観光施設を案内します。

○身近にある下山の魅力（歴史、文化、自然、食、風景、イベント）を認識して、SNSなどで積極的に発信します。



三河湖テラスこりん

8 産業

～下山の産業をみんなで支えよう～



【現状と課題】

- ・下山地域の商業、サービス業、建設業などは、事業者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。
- ・商業については、ドラッグストアチェーン店の出店により住民の利便性は向上しました。一方、人口減少に伴い地元での購買が減少しています。
- ・いずれの産業も、円滑な事業継承に向けた支援が重要になっています。



【主な施策と取組】

施策17 既存の産業の継承と新しい産業の創出

めざす状態

これまで下山を支えてきた商工業・サービス業などが、新しい時代にあった形で次世代に維持・継承されるとともに、後継者の確保と育成がされ、産業全体が活性化しています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
	事業① 【継続】 地域内の商工業者の支援 【下山商工会】	商工業に関する相談及び指導、研修会の開催、小規模企業支援を行います。
	事業② 【継続】 特産品のPR及び特産品を活用した商品開発 【香恋の里】	お茶やしいたけなど地域の特産品を地域内外にPRするとともに、おみやげ品などの商品開発を行います。
	事業③ 【新規】 事業者の紹介及び担い手づくりの確保 【下山商工会】	産業フェスタを開催し、子どもや地域住民に向けて下山の事業者を広く紹介し、地元産業に親しむ機会を設けます。
	事業④ 【新規】 新規事業者の伴走支援(あいちの山里アントレワーク) 【下山支所】	新たな産業や雇用の創出を目的とした新規事業者を支援します。

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 下山のお店や会社を知り、できるだけ下山で買い物したり、サービスを利用したりします。
- 下山の特産品を地域外の人にも紹介します。

9 農地保全 ～美しい農村風景を守ろう～



【現状と課題】

- ・令和7年4月時点の地域計画では、農地面積357haのうち、約4割(134ha)が担い手調整中または意向不明の状態にあり、担い手不足が深刻化しています。また、その半分程度の60ha程度が耕作放棄地と推測されています。
- ・農地管理作業は地元の農業従事者が担っており、担い手の高齢化や人手不足が年々深刻化しています。
- ・このような状況が進展すれば、景観や環境の保全が困難になるだけでなく、将来的な農地の再利用・有効活用の可能性も著しく低下する恐れがあります。



【主な施策と取組】

施策18 農地の適正管理の推進

めざす状態

下山地域の農地は、地域全体での維持管理により、美しい景観が保たれています。また、地域の高齢化や担い手不足という課題がある中でも、次世代の農業の担い手が少しずつ育ち、住民が主体となった取組が広がっています。これらの活動は景観や農地の維持にとどまらず、地域の活力や人々のつながりを生み出し、下山の農業基盤を持続可能なものへと導いています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
	事業① 【拡充】 農作業受委託システムの拡充 【営農協議会】	農協や地域内事業者との連携を検討し、農作業受委託システムの構築をめざします。これにより、農作業の効率化や担い手不足の緩和を図ります。
	事業② 【新規】 地域計画の目標地図の精度向上 【営農協議会】	地域計画に基づき、農地の集積・集約化を進めることで、農地の保全と利活用を促進します。
	事業③ 【新規】 住民による粗放的な農地管理 【営農協議会、各自治区】	管理の手間が比較的少ない粗放的な農地管理を主要道路沿いや集落周辺の耕作放棄地に導入し、地域の景観保全や、住民の憩いの場としての活用を図ります。

※「粗放的な農地管理」とは？

自然の力を活用して労力や資本を抑える農地管理方法です。生産性は高くないものの日常の管理に対する負荷が少なく、担い手不足の山間地域に適した方法です。農家・自治区・農協・企業・行政が連携し、小さな取組から広げていくことで、地域の景観や住民のつながりの再生につなげていきます。

【 農地（山林）保全に関連して地域で行われている取組 】

取組

- ・ 安心安全なミネアサヒの栽培【香恋の田んぼ米の会】
- ・ 里山の保全に関する事業の継続【しもやま里山協議会】
- ・ 田畑、山林、その他緑地の管理【しもやま緑地管理組合】
- ・ 人と生き物が共生できる森づくり【香恋の森づくり推進協議会】
- ・ 薪炭文化の伝承による里山の再生【モリワカガエルの会】

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 家の周りや近くの耕作放棄地の草刈りや簡単な手入れを行い、地域の景観維持に貢献します。
- 組、ボランティア等を通じて景観保全のための農地管理に協力します。
- 子どもや若者への農業体験・学びの場を提供し、次世代の担い手育成につなげます。



【現状と課題】

- ・道路は、通勤・通学、買い物、通院などの日常生活や観光振興、定住促進において不可欠です。また、災害発生時のライフラインの確保としても重要です。
- ・令和6年3月のTTC-Sの本格稼働に伴って国道301号の整備が進み、豊田市街地への交通利便性は向上しました。現在、国道301号の新たなバイパス建設計画が進行し、さらに利便性が向上する見込みです。
- ・一方、交通量は年々増加し、さらなる交通渋滞など生活環境への影響が懸念されており、下山地域の安全と安心の確保・対策が必要となっています。
- ・地域の実情や必要性を考慮しながら県や市に継続して要望することで道路整備が進んできましたが、いまだ整備が必要な区間は残されています。

【主な施策と取組】

施策19 道路整備

めざす状態

下山地域の中心部と集落間や下山地域と市街地をつなぐ道路の整備により、下山地域に暮らす人々の利便性が向上するとともに、災害時の孤立を防止し、安全・安心な暮らしや定住促進にも貢献しています。

取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
事業① 【継続】	道路の整備・修繕 【愛知県、地域建設課】	①下山地域内の要望路線・生活道路の整備を進めます。 ②道路の舗装・修繕を行い、道路の延命化を図ります。
事業② 【継続】	要望路線の進捗管理 【基盤整備部会】	要望路線について、早期の事業完了に向けて進捗状況を確認します。
事業③ 【継続】	支障木の伐採 【各自治区、下山支所】	地域の要望をもとに、交通の支障となる樹木の伐採・枝払い等を行います。また、わくわく事業の活用も推進します。

◆今後の道路整備予定（要望路線）

路線名等		事業箇所	事業内容
一般国道473号		和合町・神殿町	道路改良
主要地方道足助下山線		大沼町	道路改築
一般 県 道	作手善夫大沼線	大沼町	視距改良
	坂上花沢線	花沢町	視距改良
	作手菅沼平瀬線	宇連野町	道路改築
	作手善夫大沼線	羽布町	道路改築
	東大見岡崎線	平瀬町	視距改良
	大沼足助線 (東大見岡崎線重複)	大沼町・平瀬町	道路改良
	東大見岡崎線	栃立町	視距改良
	東大見岡崎線	東大林町	道路改良
市 道	下山二本松名牛東線	大沼町	待避所設置
	下山越田和ドドメキ線		道路改良
	下山二本松名牛東線と下山 越田和ドドメキ線を結ぶ線		道路新設 (整備効果を協議)
	下山下田上平線	黒坂町	道路改良
	下山黒坂和合線	黒坂町・和合町	舗装修繕
	下山大官屋敷石坂線	大沼町	待避所設置
	下山野原梨野線	野原町	側溝蓋設置
	下山東大沼小松野線	小松野町	待避所設置
	下山羽布宇連野線	羽布町	待避所設置
	下山田平沢大林線	田平沢町	待避所設置
	下山ニ夕瀬草木線	羽布町	舗装修繕

※あくまで整備予定であり、予算等を担保されたものではありません。

※整備完了時期が後期（5年間）以降の計画も含まれます。

【 基盤整備に関連して地域で行われている取組 】

取組

- ・わくわく事業を活用した支障木伐採【各地域団体】

◆一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 道路を大切に使い、道路の修繕、補修などに協力します。
- 道路の損傷を見つけたら、道路損傷通報システム（豊田市LINE公式アカウント）を利用して通報します。
- 地域の活動として沿道の草刈りや支障木伐採に協力します。



【現状と課題】

- ・下山地域における地域バス（しもやまバス）は、デマンド型（予約制）の乗合バス2台で運行されており、買い物や通院、通学など地域住民の日常生活を支える重要な移動手段となっています。
- ・地域の協賛金制度によって、中高生や運転免許返納者の方に対して運賃の補助を行うなど、地域ぐるみの支え合いにより運行されています。
- ・地域バスの認知度は低く、利用者が少ない状況です。
- ・基幹バス（名鉄バス、おいでんバス）の最終バス停が大沼であり、東部地域の居住者は通学・通勤の際に基幹バス停まで自力で行かなければいけない状態です。




【主な施策と取組】

施策 20 誰もが安心して利用できる持続可能な地域交通の実現

めざす状態

高齢者から若年層まで、多くの住民が安心して地域バスを利用することができ、持続可能な公共交通が地域ぐるみで支えられています。

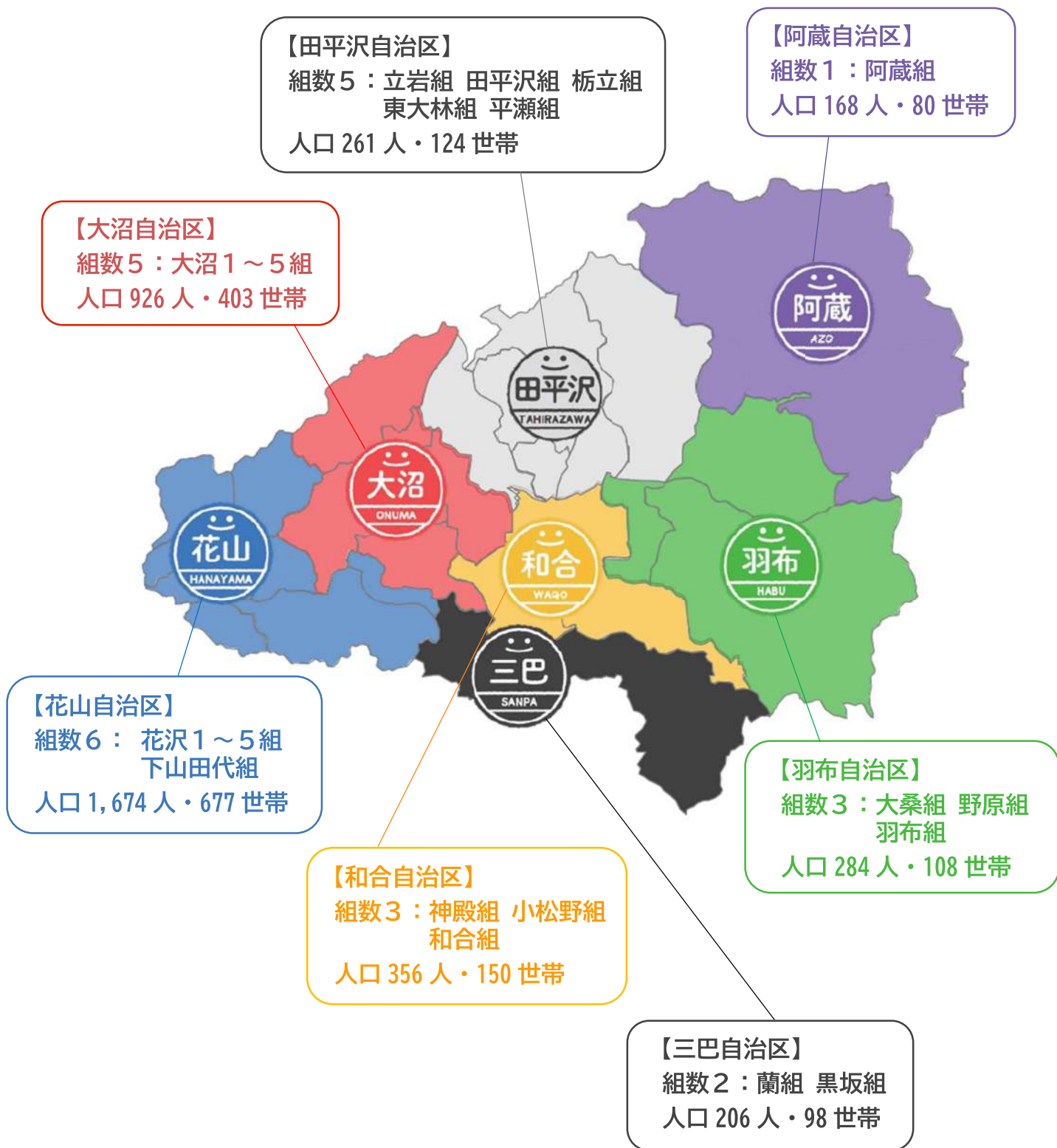
取組事業

	事業名及び主な取組団体	事業概要
	事業① 【新規】 高校生が安心して通学できる仕組みづくり 【公共交通協議会、下山支所】	地域バスの高校生優先利用施策を実施します。
	事業② 【新規】 中高生や高齢者への利用支援策の検討 【公共交通協議会、下山支所】	①地域内事業所からの協賛金により、回数券配布キャンペーンを実施します。 ②地域バス停までの移動が困難な高齢者に対して、社会福祉協議会等と連携を図り対策を検討します。
	事業③ 【新規】 地域バスの利用促進 【公共交通協議会、下山支所】	スマイルフェスタなどのイベントを通じて、地域バスをPRします。

◆ 一人ひとりの住民のみなさんの取組例

- 買い物や通院などに地域バスを利用します。
- 基幹バスのバス停まで、地域バスを利用して乗り継ぎます。

自治区プラン



※人口及び世帯数は、豊田市住民基本台帳（令和7年10月1日現在）によります。

子どもの声が聞こえ、笑顔で暮らせるまち しもやま





阿蔵 自治区プラン

阿蔵自治区のこれまでの取組

- 組合併についての協議を重ね、令和5年度に高野組と阿蔵組が合併しました。残りの組についても合併に向けて議論を重ねており、令和8年度には1自治区1組に統合される予定です。
- トヨタ工業学園の地域貢献活動の協力のもと、「阿蔵わくわく広場」の整備を実施しました。
- 阿蔵地域念仏踊りでは、地域内外の人へ参加呼びかけをすることで令和7年度には約180人の参加者が集まりました。
- 「収穫祭」を開催し、地元でとれたお米を使った五平餅づくりなどを行い、地域住民の交流を深めました。
- 地域の景観整備の取組として、地域住民が主体となり、国道沿いに鯉のぼりを飾りました。



阿蔵自治区の今後5年間の取組

重点 取組

取組1：合併後の組運営について段階的に検討を進める

阿蔵自治区では、組の役員の担い手が少なくなるなど組の運営が難しくなってきたことから、阿蔵自治区を1つの組として合併しました。今後、1つの組として運営していくため、役員や神社、祭礼、共有財産の今後のあり方についての検討や合意形成を段階的に進めていきます。

また、敬老会など皆で集まる場を通じながら住民との情報共有を図っていきます。

取組2：住民のつながりを強化する（地域活動の継続）

阿蔵自治区では、地域の活動を通じた住民同士のつながりができています。人口が減少する中でも、産直「かえで」や念仏踊り、三番叟^{さんぼそう}など、現在行われている地域活動が継続することができるように、地域外を含めた協力者（関係人口）を増やします。こうした活動を通じて、より強い住民のつながりを作るとともに、自治区の伝統文化を継承していきます。



取組3：関係人口・移住者を増やす（空き家・空き地活用、受け入れ体制づくり）

阿蔵自治区に新しい住民を受け入れていくため、地域での声かけによる空き家の把握や活用をするとともに、各家で将来の土地や住宅について考えたりしていきます。

あわせて、阿蔵の暮らしについての情報を、里楽暮住しもやま会や下山支所、地元住民から移住者に伝え、移住者や関係人口の受け入れを進めます。

阿蔵自治区の5年後の将来像



- 組運営やお役の見直しを行いながら、地域の活動が適正な規模で実施されています。
- 様々な活動グループや産直「かえで」の運営も続いており、住民同士のつながりが続いています。
- 念仏踊りなどの地域の文化が次世代に引き継がれています。
- 地域の文化や魅力を地域外の人にも発信することができ、文化継承や保存に携わってくれる関係人口が増えています。
- 空き家や空き地、遊休農地は住民の協力により活用されたり、新しい住民に提供されたりしています。
- 農地や山林は、住民同士が協力したり、地域外の人や企業に協力してもらったりするなどして守られています。
- 阿蔵の情報や暮らし方が、阿蔵への転入者や転入を希望している人に地域から伝えられています。
- 阿蔵わくわく広場が整備され、地域内外の人が交流できる場所を目指します。

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：合併後の組運営について段階的に検討を進める				
組合併の周知・地域住民との共有	お役の見直し検討	組費などの整理	地域行事・住民交流会の検討	
2：住民のつながりを強化する（地域活動の継続）				
「かえで」をきっかけとした関係人口の増加・かえで会員数（生産者）の増加				
念仏踊りのデジタルアーカイブの作成	お祭り等の協力者を増やしていく方法の検討			伝統文化の継承
阿蔵わくわく広場の整備と活用				
3：関係人口・移住者を増やす（空き家・空き地活用、受け入れ体制づくり）				
地域での声かけによる空き家・空き地の情報の把握・整理		空き家・空き地の提供の活発化 空き家・空き地情報バンクの活用		
関係人口・移住者の受け入れ体制づくり・交流活動の活発化				
里楽暮住しもやま会や下山支所、地元住民で移住者に暮らしの作法の話をしていく				



大沼 自治区プラン

大沼自治区のこれまでの取組

- 大沼まちづくり部会では、5つ取組ごとにグループに分かれてそれぞれ担当し、取り組んでいます。
- 空き家に関する勉強会の開催や、「大沼の暮らしのルール」を各家庭に配布しました。
- 八沢の丘公園の整備を進め、交流イベントを開催しました。
- 認知症サポーター養成講座の定期的開催や、しめ縄づくり体験を実施しました。
- 外部ボランティア活動の受け入れ体制を整え、交流を図りながら景観整備を進めました。



大沼自治区の今後5年間の取組

取組1：各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する

～地域の環境（空き地・空き家・農地）の適切な管理と地域の維持・活性化のために～

住民が安心して暮らし、活気のある地域となることを目標に、空き地・空き家の活用や暮らしのルールの更新を行います。また、実家・農地を今後どうしていくかを各家庭で話し合い、適切な管理を進めます。また、移住者や地域外の人たちとの交流を深め、困った時に助け合える関係づくりを進めます。

取組2：高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり

～高齢になっても安心して暮らし続けられるために～

高齢者人口がさらに増加し、高齢者単身世帯も増える中、高齢者の見守りや声かけを地域ぐるみで行うとともに、地域の一員としての役割や交流の機会を提供することでつながりを創出して、高齢者の暮らしの充実を図ります。

取組3：子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり

～若い世代の定住性を高め、子どもの元気な声が聞こえる大沼をめざして～

子どもが元気に地域で過ごすことができるよう、地域と子ども、子育て世帯がつながることのできる機会を創出するため、八沢の丘公園の整備を進め、地域内外の交流の場として活用します。また、地域学校共働本部等との連携を深め、子育て環境の充実を図ります。

取組4：誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する

～「WE LOVE 大沼」の深化、継承をめざして～

先人の培ってきた歴史ある景観や文化を継承するため、高齢化により荒廃しつつある景観を外部ボランティアの協力を得ながら引き続き整備し、次世代につなげます。特に中心地のシンボリックな景観となるよう、大沼城跡や弘法山山道の整備を重点的に進めます。

取組5：持続可能で未来につなぐ大沼まちづくりの推進

～現在、そして未来の地域課題解決をめざして～

大沼まちづくり部会の定期的な開催や住民意識アンケートを実施し、地域課題の洗い出しや解決に取り組みます。また自治区メールやSNSを活用し、地域内外に向けて大沼の魅力を発信し、大沼のファンを増やすとともに、未来につながる大沼まちづくりを進めます。

大沼自治区の5年後の将来像

- 空き地や空き家、農地などが適切に管理され、美しく整備された景観が広がっています。
- 多くの空き家や新たな宅地が定住のために提供され、地域外からも多くの方が転入し、地域のコーディネートのもと、地域に溶け込んで暮らしています。
- 高齢者が地域の一員として、多くの人と関わりながら安心して生き生きと暮らしています。
- 子どもや子育て世帯がまちづくりに参画し、地域住民と交流しながら地域の子どものために健やかに成長していくことのできる自治区になっています。
- 誇れる大沼の歴史や文化、伝統芸能を子どもに伝えるとともに、史跡や美しい景観が整備され、多くの人を訪れることで、誰もが「WE LOVE 大沼」の気持ちを育んでいます。
- 子どもたちに胸を張ってつなぐことのできる大沼づくりを推進するため、定期的なまちづくりについて検討する場を開催し、未来の大沼について考える機会を持っています。
- 地域外の人たちも大沼に魅力を感じ、大沼のファンとして機会のあるごとに大沼との関わりを継続しています。

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：各家の住宅等の未来を考えるとともに、定住人口の確保を推進する				
①空き地、空き家調査、空き家予想マップの継続、見直し、改善				
②「次世代の生活・暮らしのルール」の更新				
③空き家、財産管理、遺産相続に関する勉強会への参加				
④移住者、地域外の人たちとの交流、意見交換会の促進				
2：高齢者が地域の一員として、生き生きと暮らし続けられる地域づくり				
①認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の継続実施				
②高齢者が集まる趣味グループとの懇談、活動PR、しめ縄づくりを使用した活動の拡大				
③小学校（子ども会）との連携の検討				
④自治区メールの利用促進、高齢者との双方向ツールの検討				
3：子どもや子育て世帯が地域の一員と感ずることのできる地域づくり				
①八沢の丘公園の整備				
②子どもや子育て世代の交流・集まる場所づくり				
③女性も集える場づくり				
4：誇れる大沼の歴史、文化、スポーツ等や美しい景観を次世代に継承する				
①史跡を利用した交流事業の定例化、環境整備の実施				
②間伐材利用の事業の検討・実施				
③自治区による支障木伐採の継続				
④中心地のシンボリックな景観整備				
5：持続可能で未来につなぐ大沼まちづくりの推進				
①効果的な情報発信方法（SNS、防災ラジオ）の検討、実施				
②大沼の魅力の発信方法の検討、実施				
③住民意識アンケート実施				



三巴 自治区プラン

三巴自治区のこれまでの取組

- トヨタ工業学園の地域貢献活動の受け入れを行い、郡界川沿いの河津桜の手入れ（剪定、コケとり、肥料やり）を行いました。
- 桜をみる会やホタルをみる会を開催し、地域の美しい景観や環境を楽しみながら地元住民の交流を図りました。
- 地域の伝統文化である巴太鼓（黒坂の祭り囃子）を年2回（祇園祭り、秋の大祭）披露しています。子どもだけでなくその親も参加し、若い世代との交流の場となっています。
- 外部ボランティアの協力のもと、獣害対策メッシュを計画的に設置・交換を行い、獣害対策に取り組みました。



三巴自治区の今後5年間の取組

取組1：定住・移住を促進して人口の維持をめざそう

里楽暮住しもやま会や役員と連携しながら空き家・空き地の発掘・活用に継続的に取り組み、移住者やUターン者の増加をめざします。また、定住者と移住者、地域外に転出した方との交流の機会となるよう、花見などの交流事業を継続的に実施します。

取組2：農地や山林を継続的に維持管理しよう

地域内には多くの農地や山林があります。地元住民だけでなく、地域外のボランティアの協力を得ながら、農地や山林の管理を継続して行います。特に農地に関しては、イノシシ、シカ、サルなどの獣害対策に引き続き取り組みます。

取組3：自然の良さを守り、育てよう

自然環境の良さを守るため、引き続き草刈りや環境整備を実施します。また、河津桜の手入れや、ホタルやササユリなどの生息環境を整える活動を継続し、美しい景観づくりを進めます。

取組4：地域活動の維持や発展に取り組みよう

お祭りや巴太鼓などの伝統行事を大切に、後世に受け継ぐように保存活動を行います。これらの地域の行事や今ある取組を活用しながら、転入者や嫁いできた方などが、地域に溶け込むことや情報を得ることができるよう交流の場を作ります。

また、地域活動を維持していくため、役員の仕事の役割分担などの見直しを行い、負担を減らす工夫をして担い手を確保します。



三巴自治区の5年後の将来像

- 地域外に転出した人たちとも良好な関係が築かれており、関係人口が維持されています。
- 空き家や空き地が増えても放置されることなく、移住者用の住宅などとして活用されています。
- 隣近所のあいさつや会話が日常的に行われ、支え合いや見守りなど暮らしの安心が感じられています。
- 若者の定住や移住が進み、子育て世帯にとって住みやすい地域になっています。
- 地域外の人々の力も借りながら農地や山林が守られており、農業や林業の担い手となる人も出てきています。
- 河津桜を育む活動が多くの人々の参加により行われており、春には花見に訪れる人が増えています。
- ホタルが生息しやすい環境づくりが続けられ、初夏にはホタルが飛び交う風景が見られます。
- 自治区や組の運営・行事は、負担の少ない形に変えながら引き継がれています。
- 巴太鼓などの伝統芸能やお祭りなどの行事が守り続けられており、子どもや高齢者、地域外に転出した人にとっても「三巴の誇り」となっています。



令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：定住・移住を促進して人口の維持をめざそう				
①花見など交流事業の継続				
②里楽暮住しもやま会や役員と連携した空き家・空き地の発掘				
③地域ふれあいサロンでの交流				
2：農地や山林を継続的に維持管理しよう				
①獣害対策メッシュの設置・交換の推進				
②地域外のボランティアの協力による山林の管理				
3：自然の良さを守り、育てよう				
①河津桜の手入れの継続 草刈（年2回）、剪定（3年おき）、支障木確認（隔年）				
②ホタルの生育環境の維持、「ホタルをみる会」の開催				
③ササユリの保全				
4：地域活動の維持や発展に取り組もう				
①地域活動や役員の仕事の役割分担の見直し				
②お祭り、巴太鼓など伝統文化の継承				
③地域の祭礼の機会を活用した交流の実施				

重点
取組

重点
取組

重点
取組



田平沢 自治区プラン

田平沢自治区のこれまでの取組

- 住民同士及び転出者とのつながりづくりを目的に、自治区夏祭りを開催しました。
- トヨタ工業学園の地域貢献活動を受け入れ、もみじ街道の草刈及び整備作業を行いました。
- 自主活動組織「おっさんズクラブ」の主催により、年2回のグラウンド整備及びグラウンドゴルフ大会を開催しました。
- 住民アンケート調査（令和5年度に住民意識調査、令和7年度に組合併意向調査）を実施し、組合併に向けた課題の整理・検討を行いました。



田平沢自治区の今後5年間の取組

重点取組

取組1：自治区運営を次世代に引き継ぐためのあり方検討

自治区や組の運営、行事や祭りの担い手の高齢化が進み、人口減少や若手の参加減少により、将来的な担い手不足が懸念されています。このため、組の合併や役職体制の見直しなどの検討を進め、持続可能な自治区運営のあり方をめざしていきます。

また、ICTの活用を図り、電子回覧や連絡業務、情報共有等のデジタル化を進めることで、役員及び住民の負担軽減を図っていきます。

重点取組

取組2：住民同士のつながりづくり

地域の人が気軽に集まっておしゃべりをする機会が少なくなり、近所同士のつながりが希薄になっています。このため、自治区内の自主活動グループの継続支援を通じて、住民同士の交流を促進します。

また、見守りアプリの活用や地域の見守り体制の整備を進め、日常的な安否確認や緊急時の迅速な対応ができる仕組みを検討し、高齢者が安心して暮らせる地域づくりを進めます。

取組3：田平沢転出者との関係づくり

自治区が開催するお祭りには、転出した子どもや孫が多く参加し、地域とのつながりを保つ貴重な機会となっています。今後は、こうしたつながりをさらに深めるため、転出した若い世代や孫世代が企画や運営にも参画し、世代交代を進めながらお祭りの継続に取り組みます。

取組4：地域活動による定住・移住の促進及び景観の維持

高齢化により、田畑を管理することが困難になり耕作放棄地や空き家が増えることが懸念されます。住民一人ひとりが財産管理に対する意識を高め、活用可能な物件については空き家情報バンク制度などを活用して移住促進を図り、将来的な荒地化や空き家化を未然に防ぎます。

また、もみじ街道や巴川沿いの環境整備を住民が協力して継続的に進めるとともに、モミジやハナモモなどの、手間のかからない粗放的管理による景観づくりにも取り組みます。

田平沢自治区の5年後の将来像

- ひとり暮らしの世帯は増えていますが、つながりづくりの活性化で孤独になる人はいません。
- 自治区内では、誰もが楽しめるイベントが定期的に行われ、みんなが生き生きと活動しています。
- 進学・就職・結婚などで外に出ていった人も、お盆の帰省時には地域みんなで集まり、地域とのつながりが維持されています。
- 地域の環境整備を通して、田平沢自治区の景観を美しく保ち、訪れる人にも田平沢の豊かな自然と美しい景観でもてなします。
- 地域の若い世代が自治区活動に参加しており、自立した自治区運営が継続されています。
- 自治区や組の運営、行事やお祭りは、少しずつ形を変えながら、次の世代に引き継がれ、存続しています。



令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：自治区運営を次世代に引き継ぐためのあり方検討				
自治区・組のあり方についての意見交換		組合併に関する方針決定	方針に沿った取組を実施	
自治区運営にアプリを活用	アプリ活用による自治区運営の負担軽減			
2：住民同士のつながりづくり				
「おっさんズクラブ」「笑母会」 ^{わはほかい} の活動を続ける				
見守りアプリの活用、地域における見守り体制づくりの検討				
3：田平沢転出者との関係づくり				
田平沢とつながる人に広く呼びかけて、お祭りを開催する (大きなイベントにするより、続けることを大切にする)				
4：地域活動による定住・移住の促進及び景観の維持				
空き家・空き地の発掘活動				
主要道路沿いの定期的な景観整備、モミジやハナモモなど粗放的管理による景観整備				



花山 自治区プラン

花山自治区のこれまでの取組

- 地域外からの訪問の多い国道 301 号沿いの根引峠や土手等の環境美化活動を実施し、景観保全に努めました。
- 地域資源である妙楽寺・易行寺・子ども広場を活用し、花山地区子ども会や地域の大人との共働で子どもたちが楽しめる祭りなどを開催しました。
- 花山ちょっとパートナー及び花山版わくわく事業を創設し、自治区団体へのサポートを実施しました。(R4：3件、R5：1件、R6：3件)
- TTC-Sの建設でできた蕪木町調整池の景観整備に伴い遊歩道を整備し、地域住民とTTC-Sの従業員で市の生涯活躍講座を活用してウォーキングを実施しました。



花山自治区の今後5年間の取組

取組1：地域をあげた移住者の受け入れ体制と受皿づくり

人口減少が進む中、今後の自治区活動を維持するためにも、新しい世代の受け入れにより地域活動の担い手につなげる取組が急務となっています。そのため、移住者・転入者を地域の一員として受け入れる土壌づくりをします。具体的な取組として、里楽暮住しもやま会委員を中心に勉強会の内容検討を進めることで、受け入れに向けた機運を醸成します。また、受皿となる空き家の発掘に向け、地域との連携により空き家調査や啓発活動を進めます。さらに、移住後の生活相談先を整えるなど、地域をあげて移住者を受け入れる体制と受皿づくりに取り組んでいきます。

重点
取組

取組2：子どもや高齢者が集える場所づくり

子どもや高齢者が気軽に集まり活用できるよう、自治区内にある集いの場の周知と活用を行います。また、自治区活動の拠点となる区民会館建設に向けた検討と区民に対する意思確認を行います。さらに、既存のイベントを活用した子どもと高齢者を集めた三世代交流イベントを実施し、集いの場を創出します。

重点
取組

取組3：区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり

暮らしやすい地域づくりを推進するためには、区民が自治区活動を理解し、活動へ参画しながら自治区を盛り上げていくことが重要です。そのため、自治区活動の啓発と区民の意見を伝えやすい場を提供するとともに、活動をサポートする仕組みや区民のより主体的な活動意識を育てる環境を整備します。また、自治区備品の貸出が見える化し、活動支援や非常時の共助体制を整えます。

取組4：周辺地域・地域内事業所との関係づくり

自治区のさらなる発展のためにも、周辺地域や地域内事業所との関係性を密にすることが求められています。このため、相互の情報交換の場や、共同作業による景観整備などを通じて信頼関係を築くとともに、事業所イベントへの参加などを通じた交流の場を設け、安全で活気あるまちづくりを進めます。また、自治区で所有する防犯パトロール車を活用した自主防犯活動にも力を入れ、安心安全な地域づくりをめざします。

花山自治区の5年後の将来像

- 地域のみんが望む区民会館が整備され、地域の交流拠点として活用されています。
- 移住者の受け入れが盛んになっており、地域ぐるみで空き家や遊休地活用の意識が高まっています。
- 子どもや高齢者が、安心感をもって暮らしやすい地域となっています。
- 自治区活動の意識が向上し、防災訓練などの自治区行事に積極的に参加する人が増えています。
- 周辺地域や地域内事業所との情報交換の場が設けられ、良好な関係が築けています。
また、TTC-S全面運用開始による交通渋滞緩和などへの対策を協力して行っています。
- 周辺地域や事業所・従業員との交流やイベントが行われ、新しい賑わいもできています。
- 地域内交流の機会をきっかけにして、定住の機運が高まっています。

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：地域をあげた移住者の受け入れ体制と受皿づくり				
①受け入れ勉強会の内容検討・受け入れの機運が高まる啓発チラシの配布				
②空き家発掘及び啓発活動・里楽暮住しもやま会との情報交換会				
③移住後の生活サポート支援の検討及び実施				
2：子どもや高齢者が集える場所づくり				
①新たな集いの場 調査・検討	集いの場の景観整備・区民会館の住民合意形成			
②イベント部会設置 イベント内容検討	三世代交流イベントの開催			
3：区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり				
①目安箱活用方法検討	目安箱運用			
②わくわく事業見直し	花山版わくわく事業運用			
③備品貸出制度及び 非常時の共助体制準備	備品貸出啓発及び非常時の共助体制運用			
④ちょこっとパートナー募集・自治区活動への参画				
4：周辺地域・地域内事業所との関係づくり				
事業所との関係構築 顔合わせ・意見交換 アンケート等	①交通インフラ整備・充実			
	②獣害対策や草刈り等の協働実施			
	③社会学習支援の充実、交流の場創出			
	④地域遺跡や遺産の発掘・紹介			



羽布 自治区プラン

羽布自治区のこれまでの取組

- 空き家情報バンクへの登録促進のため、登録案内のポスティングを行いました。
- 「想家 PROJECT」と連携を図り、移住者との交流や関係人口の創出につながる取組を実施しました。
- 耕作放棄地を活用し、地域活動の一端を担う人材育成につなげる「オラたちの田んぼ」を実施しました。この取組により、羽布町・大桑町地内の耕作放棄地計4枚を復活させました。
- 高齢者の見守り活動を推進するため、社会福祉協議会下山支所と共働で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解を深めました。



羽布自治区の今後5年間の取組

取組1：定住・移住の促進（空き家活用、移住者受け入れの仕組みづくり）

地域が守りたい景観や祭り（伝統）の継承など、みんなが楽しく安心して暮らせる地域づくりをめざし、引き続き、空き家の活用や移住者の受け入れ体制を整えます。

各家庭で住宅の将来を考えるきっかけづくりを進めるとともに、空き家所有者への働きかけや利活用に向けた啓発を行い、地域全体で移住者が地域に溶け込みやすい環境づくりを進めます。

重点 取組

取組2：住民同士の支え合い体制整備

地域住民が安心して暮らし続けられるように、災害時における連絡体制を整えるとともに、防災マップを見直すなど住民相互の支え合いがスムーズにできる環境を整備します。

地域の高齢者世帯や一人暮らし世帯に対して、無理なく見守りを行うような活動や互いに助け合いを行うような活動を進める仕組みづくりを行います。

高齢者の方でも気軽にパソコンやスマートフォンを活用し、情報の共有や買い物をより便利に行えるようにするための教室を開催します。

取組3：農山村の魅力や景観の維持・向上

住みよい生活環境の維持や地域の活性化のために、農地・山林や道路・水路を地域共有の財産として地域で草刈や清掃等を行い、共同で管理するなど、地域の景観を維持・管理する取組を行います。また、田植えや稲刈り体験の取組の拡大によって、さらなる遊休農地の活用を行います。

取組4：自治区運営の維持・改善（次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編）

このまま高齢化が進み若者が減少すると、お役を担える人が固定化し、地域の活動が維持できなくなることが懸念されます。お役や地域行事を次世代に引き継ぐために、お役の役割や活動内容を見直し、自治区の運営体制のあり方を検討します。また、自治区内での情報共有を効率化するために、チャットグループを作成するなどITの活用を検討します。

羽布自治区の5年後の将来像

- 高齢者は増えていますが、ご近所同士の世代を超えた交流や助け合いが盛んです。
- 高齢者も含めて、みんながパソコンやスマートフォンを使えるようになり、暮らしが便利で楽しくなっています。
- ハザードマップの更新や一人暮らし高齢者への支援を通じ、住民の防災意識が強化されています。
- 住宅や農地の将来を地域全体で考えるようになり、空き家や遊休農地が様々な方法で活用されています。
- 地域の見守り活動や子育て世代へのヒアリングを通じて、子どもや子育て世帯にとって暮らしやすい地域になっています。
- 古くからの住民、移住者、その他の羽布と関わりのある人も含めて、みんなで親睦を深めたり交流したりする機会が生まれており、羽布の関係人口は増えています。
- 景観整備などにより三河湖の魅力が高まり観光客も増え、住民との関わりによって地域が活性化しています。
- 地域の仕事などを見直していくことにより、若い世代の担い手が増え、祭りや行事は存続・継承されています。地域外に住む人も地域の仕事や行事の運営などに協力しています。
- コミュニティバスなど公共交通機関が整備され、みんなが気軽に外出できるようになっています。

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：定住・移住の促進（空き家活用、移住者受け入れの仕組みづくり）				
下山支所や事業所と連携した空き家の発掘・「想家 PROJECT」を通じた関係人口とのつながり強化				
2：住民同士の支え合い体制整備				
組単位での見守り活動・住民の困りごとを住民で解決				
災害時における組や班ごとの連絡体制の確立				
防災マップの再整備		各戸配布		
パソコン・スマートフォン教室の開催				
3：農山村の魅力や景観の維持・向上				
道水路等（共用部）の維持管理				
「オラたちの田んぼ」の拡大・遊休農地の活用				
4：自治区運営の維持・改善（次世代に引き継ぐためのお役や行事の再編）				
自治区の活動や役員の役割の見直し		役員構成のあり方検討		
行事の存続・継承の仕組みづくり				
各組行事の継続				
情報共有効率化のためのIT導入			自治区・組での試行実施	



和合 自治区プラン

和合自治区のこれまでの取組

- 自治区だよりを隔月で発行し、自治区プランの啓蒙や自治区情報の発信を行いました。
- 住民の健康促進を目的としたヨガ教室を開催。お寺で開催したり、防災訓練後に開催したりするなど、多くの区民の方が参加しました。
- 年度初めに「近助カード」を提出していただき、「近助」の必要性和「近助」付き合いの周知を行いました。
- 自治区の女子会・男子会を開催し、住民間で気軽に交流できる機会を設けました。
- 移住者の受け入れ体制を強化し、多くの移住者を受け入れました。

和合自治区の今後5年間の取組

取組1：みんな生き生き まめ（健康）になりん

60・70・80は働きざかり、心も体も前向きにしまいか！

取組2：お互い見守り、チョット助けあえたら安心だらあ

声をかけ合い、知り合い、和み合い、助け合うまいか！

取組3：「女性が元気は、家庭も元気、地域も元気」だがん

女性が楽しく、積極的に活動できる地域にしまいか！

取組4：早めの避難が安全じゃん

迷わず、ためらわず、自分の命は自分で守らまいか！

取組5：明るく楽しい自治区にしまいか

安心安全で元気な地域を維持し、発展させまいか！



重点
取組

和合自治区の5年後の将来像

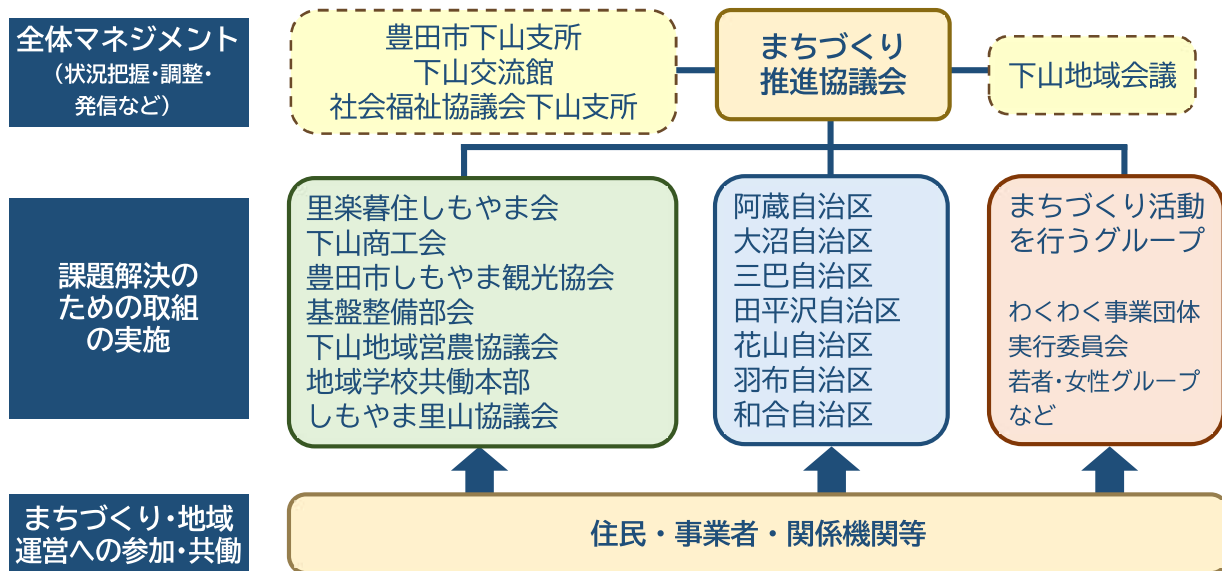
- 高齢者は増加しますが、寝たきりにならず、心も体も元気よく過ごしています。
- 地域内での見守り、支えあいが負担なく、ほどよい距離感でできています。
- 地域の人たちが、気軽にふれあうことができる機会が継続されています。
- 女性が元気で地域の行事にも積極的に参画しています。
- 地震などの大きな災害が発生しても、速やかに避難できるような体制づくりと日頃からの防災意識が醸成されています。
- 移住者が増加し、元気な地域が維持されています。
- 人口が減少する中でも自治区や組の運営を見直し、継続しています。

令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)
1：みんな生き生き まめ（健康）になりん				
①心身の健康教室の実施（お寺でヨガ、防災訓練後のヨガ教室の継続実施）				
②自治区だよりにて「幸齢化」に向けた健康的な家庭生活を送るための情報発信				
2：お互い見守り、チョット助けあえたら安心だらあ				
①あいさつからご近所ネットワークづくり				
②「近助カード」を毎年更新				
③班を中心とした「近助（近所）」の活動の周知、意識づけ、普及活動				
3：「女性が元気は、家庭も元気、地域も元気」だがん				
①「わごうの女子会」の活動の充実と継続				
②移住者と地元の女性との交流				
4：早めの避難が安全じゃん				
①避難場所（まどいの丘）設置の防災倉庫の管理維持・防災委員会と自治区組役員による管理維持計画と備蓄				
②住民参加の防災訓練の実施				
③災害状況に応じた各組集会所の運用検討			運用体制の構築	
④住民の防災に対する意識の醸成				
5：明るく楽しい自治区にしまいか				
①自治区だよりの発行				
②粗放的農地管理の実施				
③定住・移住・交流促進（住み続ける取組・空き地空き家発掘・自治区紹介情報発信）				
④移住者の活躍支援（ご近助付き合いや生活に関する相談、農地の提供や農作業に関する手助け等）				
⑤組と主要道をつなぐ道路の整備				
⑥自治区や各組の組織・役職の見直し				
⑦「やろまいか委員会」の活動促進				

まちづくりの進め方と進行管理

1 まちづくりの進め方

- 下山地域まちづくり推進協議会は、プラン全体の実施状況について把握し、調整や情報の発信等を行います。
- 豊田市下山支所、下山交流館及び社会福祉協議会下山支所は、下山地域まちづくり推進協議会の運営及び下山地域のまちづくりの全体をサポートしていきます。
- まちづくりの具体的な取組については、各構成団体や自治区が中心となって行います。さらに、下山の課題解決に貢献する活動を行うグループについても積極的に連携・共働・支援等を行います。
- 下山の住民・事業所・関係機関等は、構成団体・自治区・有志グループの活動を通じて、まちづくりや地域運営に参加・共働していきます。
- 自治区プランの推進にあたっては、各自治区に発足しているまちづくり部会・委員会等が中心となって取り組みます。
- 豊田市下山支所地域振興担当が「地域活動コンサルタント」として自治区のまちづくり事業に対して支援を行います。



2 >> プランの進行管理

毎年度、プランに基づくまちづくり活動の経過や成果を確認し、プランの実施状況や下山の新たな課題について、住民や関係者と共有していきます。必要が生じた場合には、プランの見直しを検討します。

3 >> プランの進行管理において確認する指標

プランの進捗状況や成果を確認するにあたり、以下の指標の推移を注視していきます。

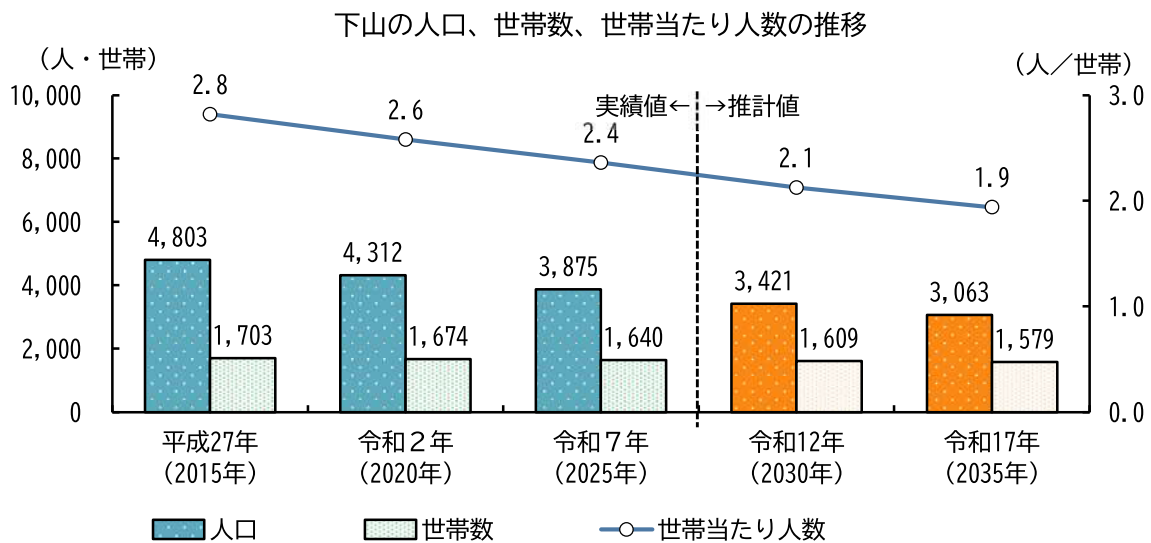
	項目	現状値	めざす方向・目標
1	定住意識（「今のところに住みたい」という住民の割合） 出典：市民意識調査	61.0% （令和7年）	↑
2	空き家情報バンクの登録件数	29件/年平均5.8件 （令和3～7年度） ※令和7年度は見込み含む	年間7件以上
3	下山地域全体の年間観光入込客数	71万人 （令和6年）	↑
4	耕作放棄地の粗放的管理 新規取組面積	—	↑
5	自治区・地域活動への参加 （「よく参加している」「ときどき参加している」という住民の割合） 出典：市民意識調査	51.0% （令和7年）	↑

<資料編> 下山の現状と動向

1 人口の状況

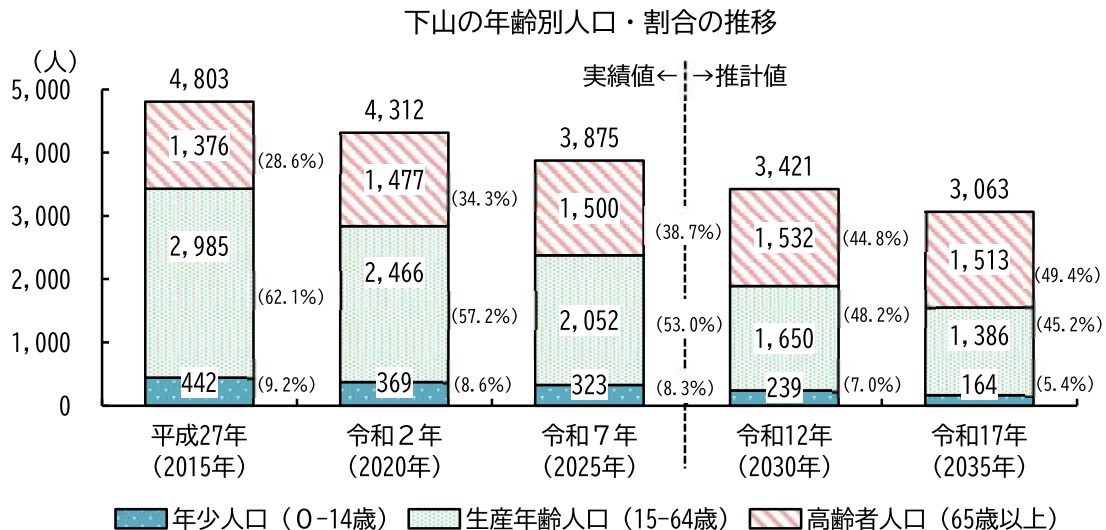
(1) 人口・世帯数の推移

人口、世帯数ともに減少が続き、世帯当たり人数は少なくなっています。



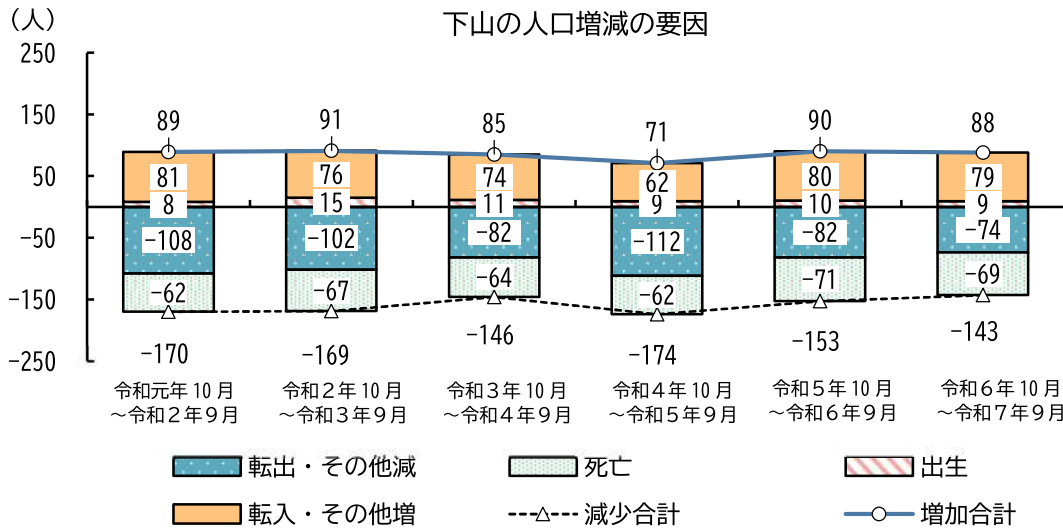
(2) 年齢別人口の動向

子どもの人口（0～14歳：年少人口）、担い手の人口（15～64歳：生産年齢人口）は減少し、高齢者の人口（65歳以上：高齢者人口）は増加傾向にあります。このままの傾向が続くと、令和17年には、高齢者の人口と担い手の人口が逆転すると予想されます。



(3) 定住人口の増減の要因

令和元年以降、生まれる人数は8～15人、亡くなる人数は62～71人で推移しています。転入する人は62～81人、転出する人は74～112人で推移していますが、転出と転入の差引超過は小さくなる傾向にあります。



資料：豊田市住民基本台帳

(4) 各自治区の人口の状況

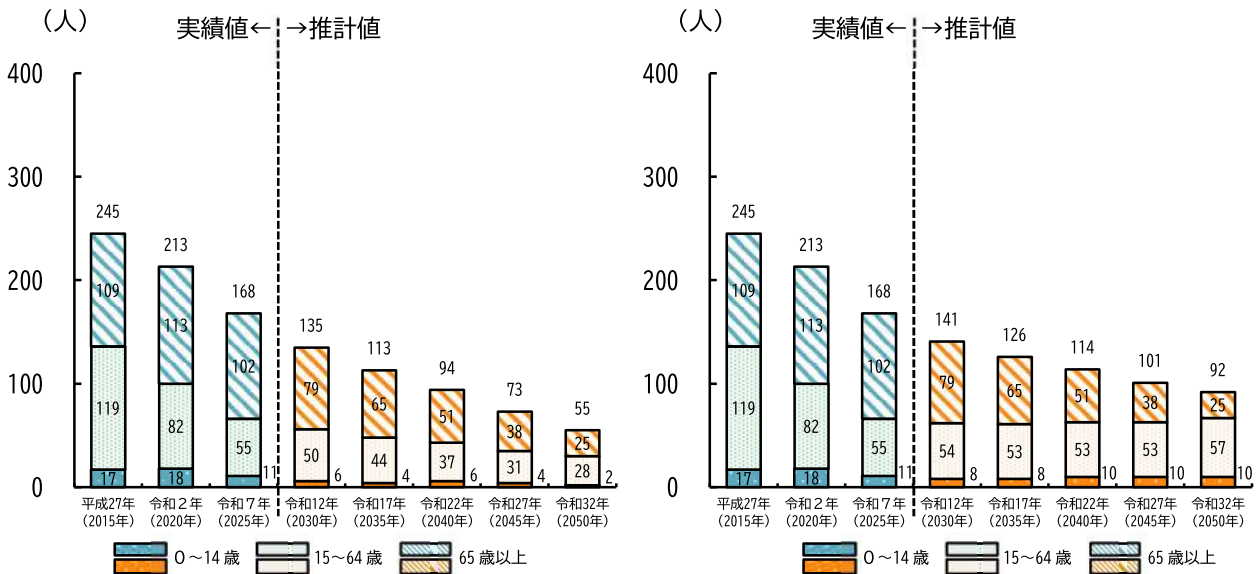
下山全体及び各自治区の人口の推移

【阿蔵自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住
5年間で2世帯
(年間0.4世帯)

移住が継続した場合の人口の将来予測



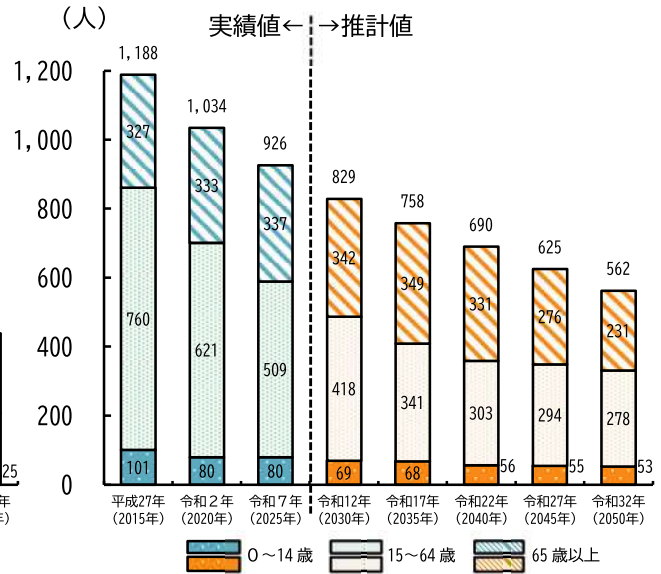
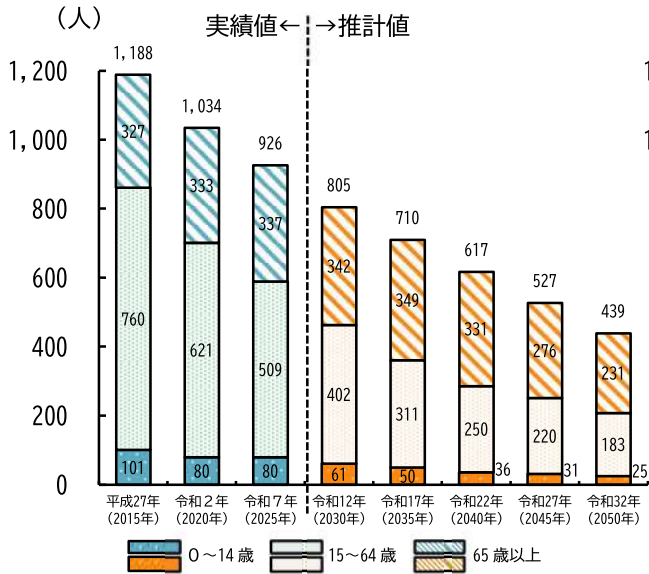
【大沼自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住

移住が継続した場合の人口の将来予測

5年間で8世帯
(年間1.6世帯)



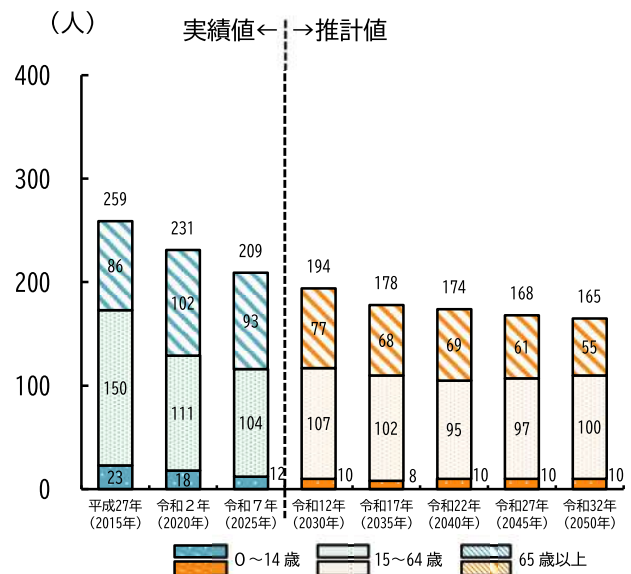
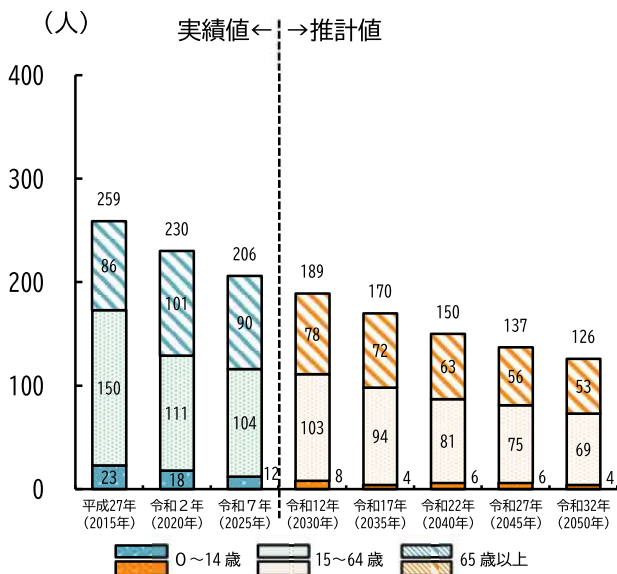
【三巴自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住

移住が継続した場合の人口の将来予測

5年間で2世帯
(年間0.4世帯)



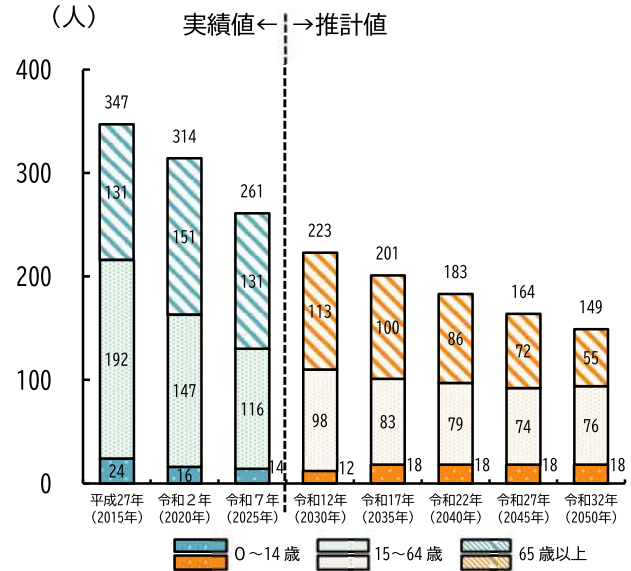
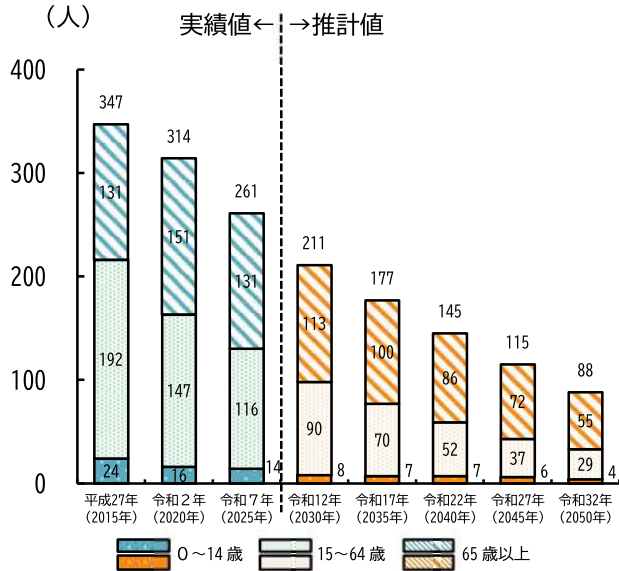
【田平沢自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住

移住が継続した場合の人口の将来予測

5年間で4世帯
(年間0.8世帯)



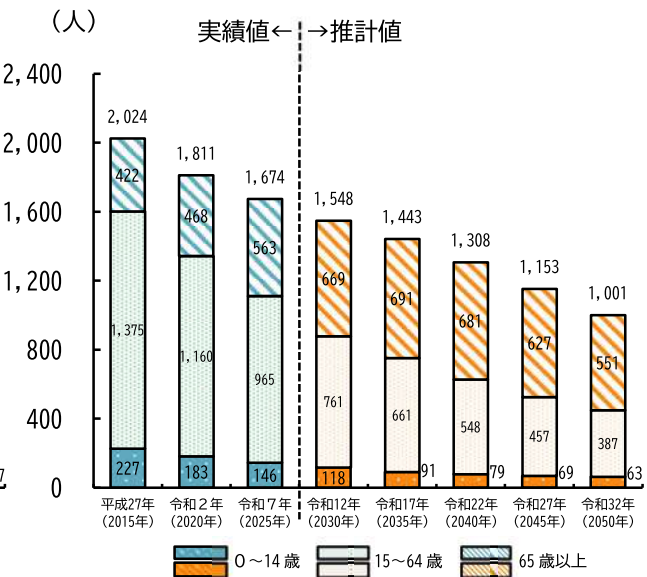
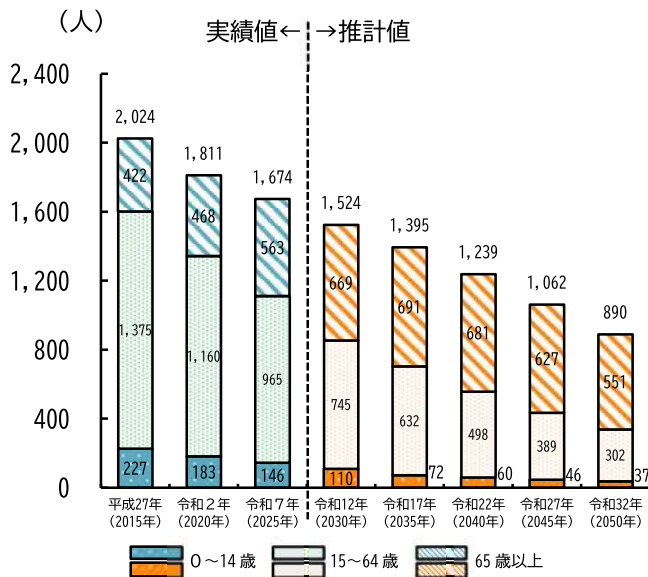
【花山自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住

移住が継続した場合の人口の将来予測

5年間で8世帯
(年間1.6世帯)



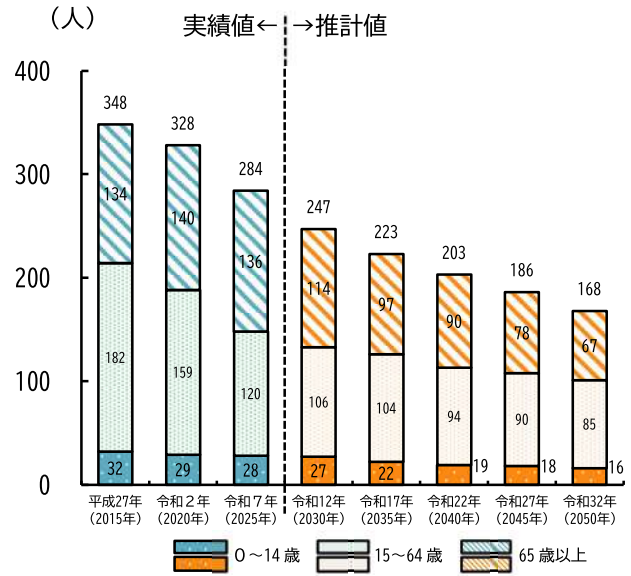
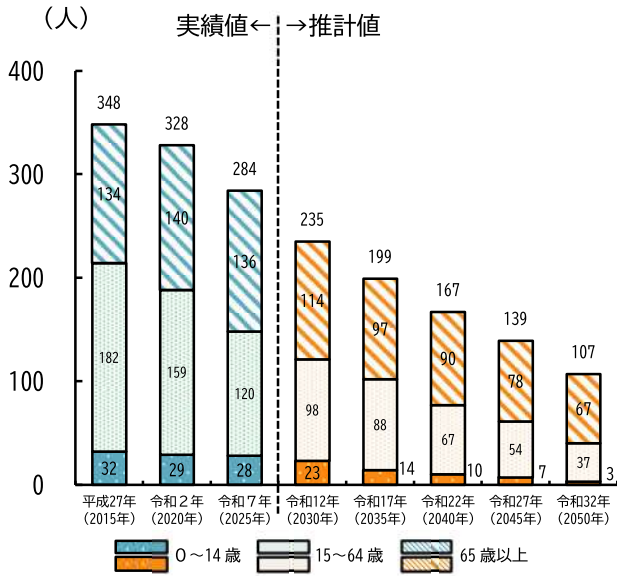
【羽布自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住

5年間で4世帯
(年間0.8世帯)

移住が継続した場合の人口の将来予測



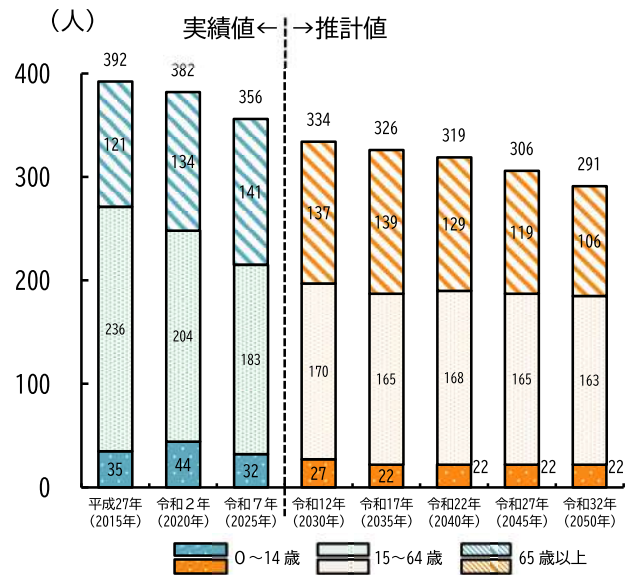
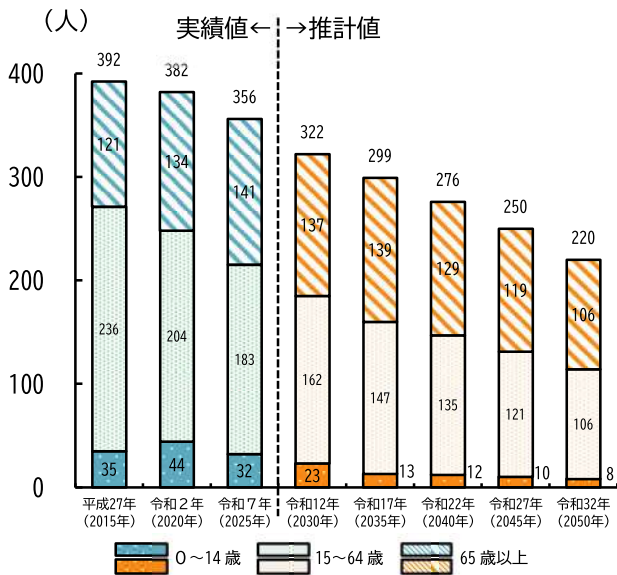
【和合自治区】

現状の推移からみる人口の将来予測

夫婦と子どもによる世帯が継続的に移住

5年間で4世帯
(年間0.8世帯)

移住が継続した場合の人口の将来予測

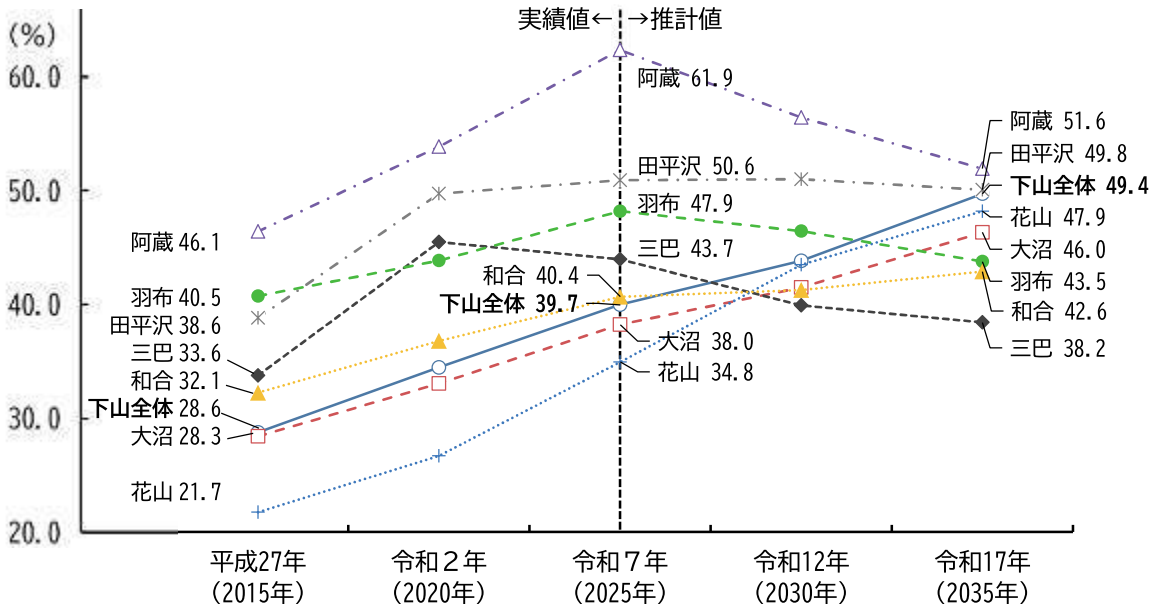


資料：令和7年までは豊田市住民基本台帳、令和12年以降は推計（各年10月1日）

(5) 各自治区の高齢化率の推移

65歳以上の高齢化率は、令和17年には下山全体で49.4%になると予測されます。

下山全体及び各自治区の高齢化率の推移

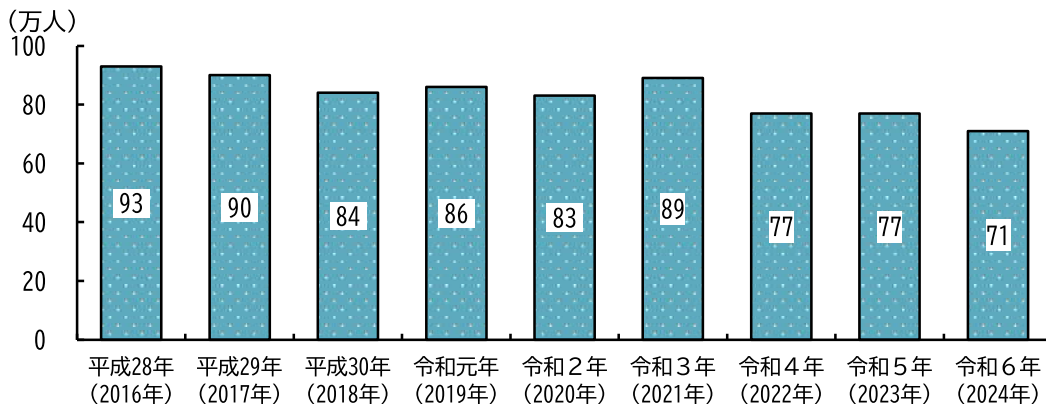


資料：令和7年までは豊田市住民基本台帳、令和12年以降は推計（各年10月1日）

2 観光入込客数

下山地域全体の観光入込客数は、長期的に減少傾向にあり、平成28年から令和6年にかけて約22万人減少しています。地域全体で「観光まちづくり」を推進し、観光入込客数の減少に歯止めをかける必要があります。

下山地域全体の年間観光入込客数

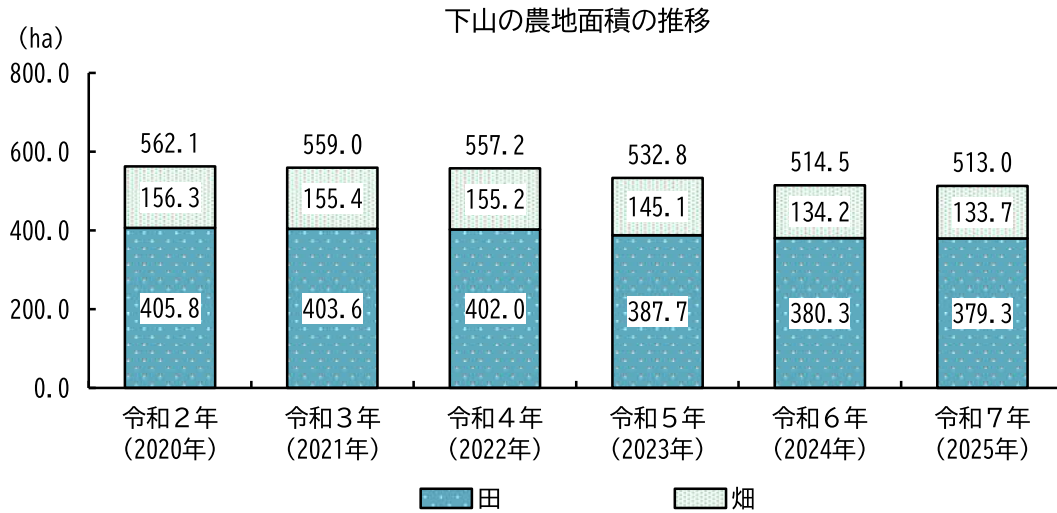


資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計、観光地点等入込客数調査

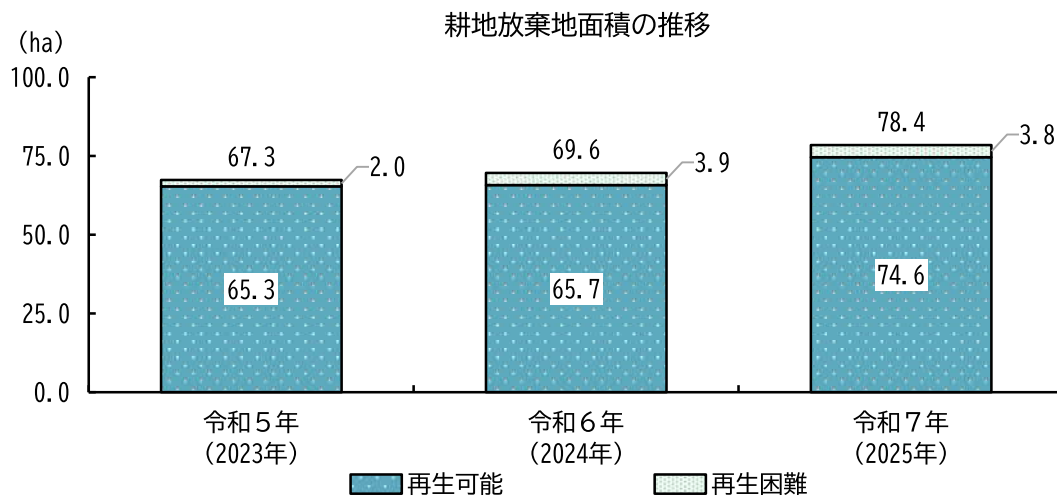
3

農業の状況

農地面積は年々減少しています。令和7年では農地約510haのうち約80haが耕作放棄地となっています。



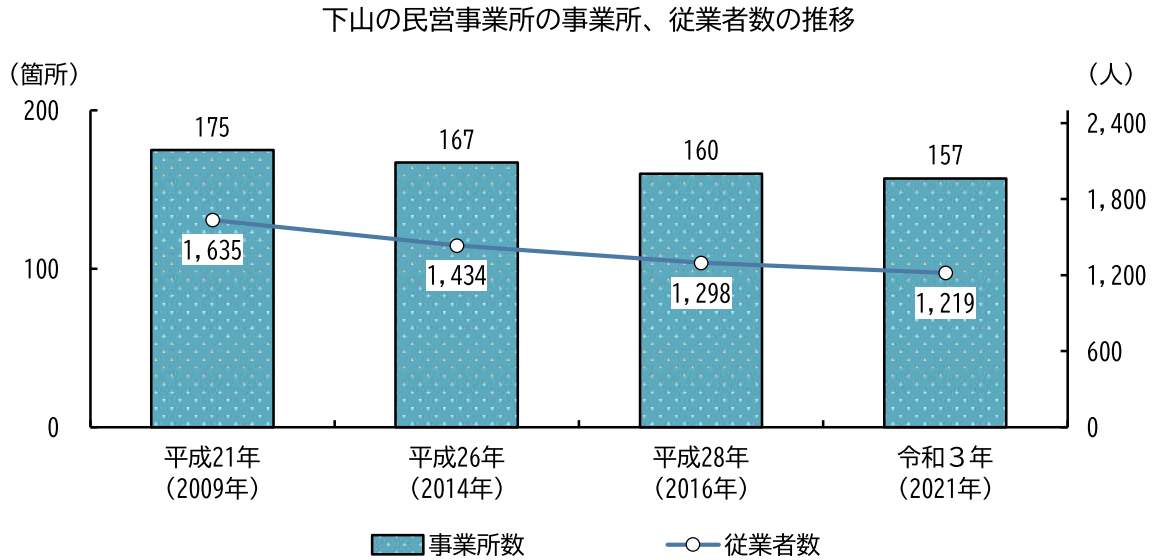
資料：豊田市農業委員会サポートシステム（各年7月1日）



資料：豊田市農業委員会の利用状況調査結果（各年3月1日）

4 事業所の状況

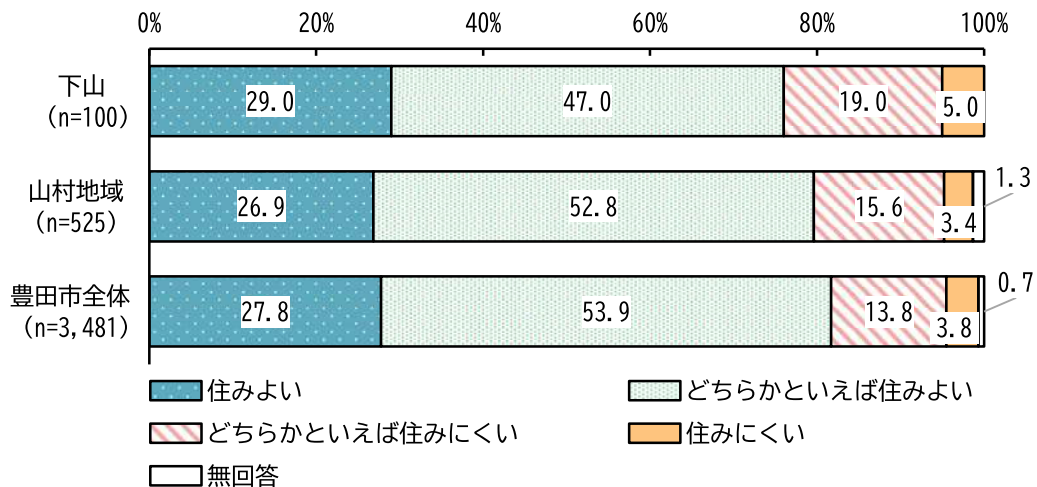
事業所の数、従業者の数はいずれも減少傾向です。



5 住民意識

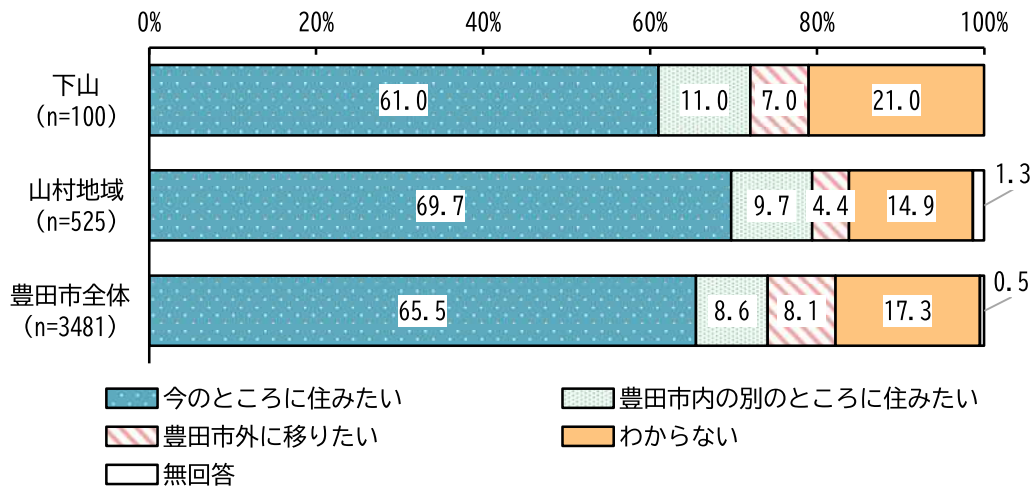
(1) 住みよさ

「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計は76.0%であり、山村地域、豊田市全体に比べて少なくなっています。



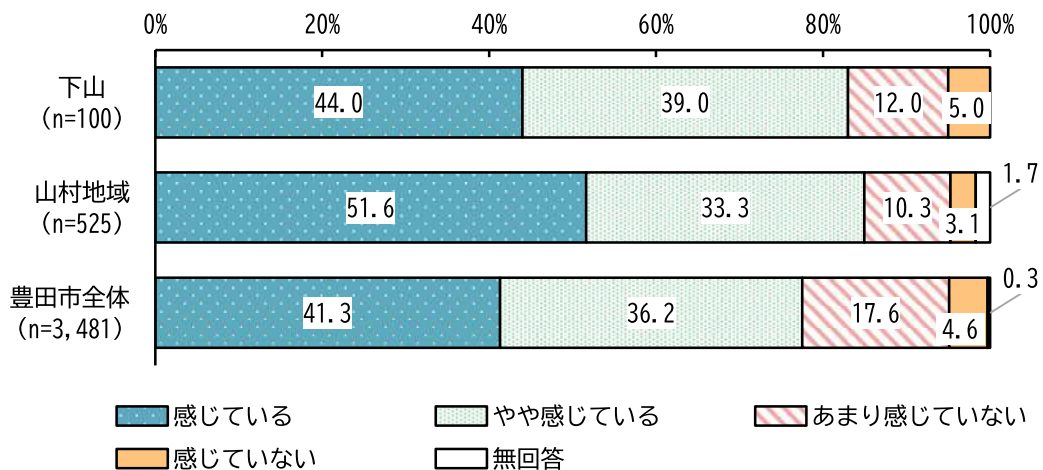
(2) 定住意識

「今のところに住みたい」と回答する人は61.0%であり、山村地域、豊田市全体に比べて少なくなっています。



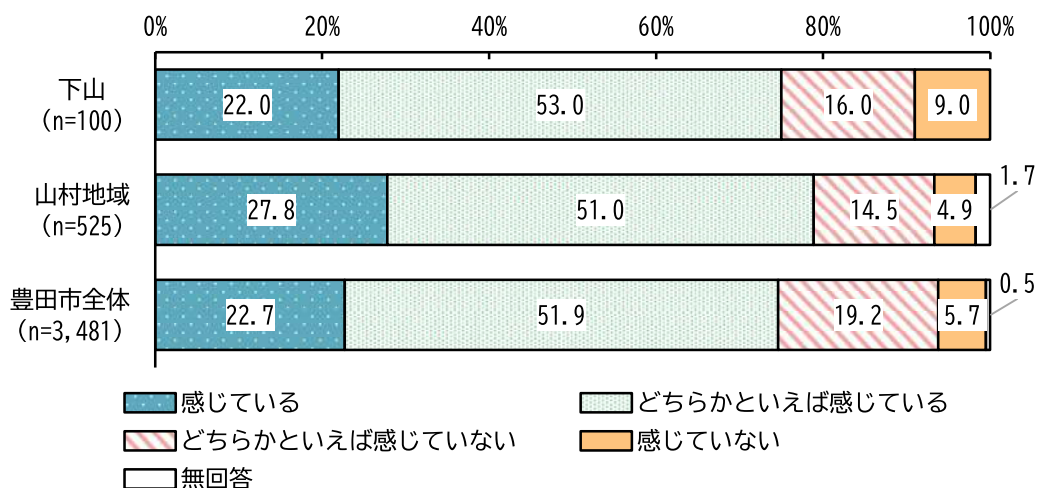
(3) 地域への愛着

「感じている」「やや感じている」の合計は83.0%であり、豊田市全体に比べては多いですが、山村地域に比べては少なくなっています。



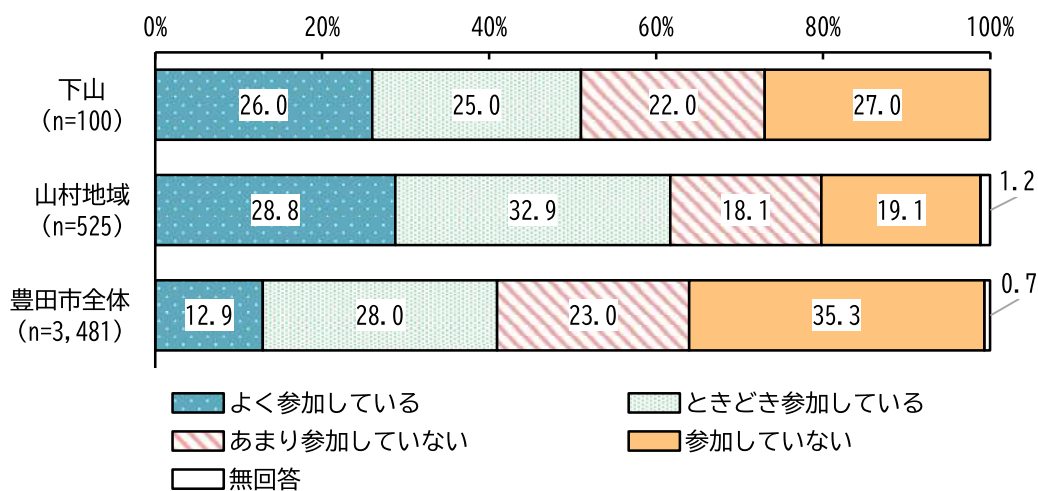
(4) 生きがい

「感じている」「どちらかといえば感じている」の合計は75.0%であり、山村地域に比べて少なくなっています。



(5) 自治区・地域活動への参加

「よく参加している」「ときどき参加している」の合計は51.0%であり、豊田市全体に比べては多いですが、山村地域に比べては少なくなっています。



資料：令和7年 第25回市民意識調査

※グラフ上の「山村地域」は、旭、足助、稲武、小原、下山の回答の合計

<参考> 策定の経過

下山地域まちづくり推進協議会

日付	主な内容等
5月28日	第1回下山地域まちづくり推進協議会 ・しもやまスマイルプラン「後期プラン」策定方針及びスケジュールについて
10月30日	第2回下山地域まちづくり推進協議会 ・分野別プラン素案の報告、協議
1月5日～23日	しもやまスマイルプラン「後期プラン」住民意見募集
2月12日	第3回下山地域まちづくり推進協議会 ・分野別プラン、自治区別プランの内容報告、意見交換 ・住民意見募集結果の確認、検討
3月24日	しもやまスマイルプラン「後期プラン」完成報告会

各自治区検討会

日付	項目
5月17日、7月18日、8月29日、9月20日	阿蔵自治区スマイルプラン会議
6月24日、7月22日、8月26日、10月2日	大沼まちづくり部会
7月10日、9月11日	三巴自治区役員会
4月12日、6月29日、9月6日、11月1日	田平沢地区まちづくり部会
4月5日、5月31日、8月2日、10月4日	花山自治区特別委員会
6月28日、7月26日、8月23日、9月27日	羽布自治区まちづくり委員会
7月27日、10月26日	和合自治区やろまいか委員会

関係団体協議

日付	主な内容
4月15日、6月17日 8月19日、9月29日 12月11日	里楽暮住しもやま会 ・しもやまスマイルプラン【定住・移住分野】施策協議
8月21日	下山地域会議（分科会2）と里楽暮住しもやま会の意見交換、情報共有 ・テーマ：下山で暮らし続けるための「持続的な地域社会づくり」
9月5日	下山地域営農協議会と下山地域会議（分科会1）との意見交換、情報共有 ・テーマ：下山で暮らし続けるための「農地の維持管理（粗放的農地管理）」

関係団体書面調査

期間	対象
8月～9月	地区コミュニティ会議、地域学校共働本部、自主防災会、下山商工会、株式会社香恋の里、子育て支援センター、豊田市健康づくり応援課、下山交流館、社会福祉協議会下山支所、豊田市下山支所

令和7年度下山地域まちづくり推進協議会委員名簿

役職	名前	団体名
会 長	加藤 繁廣	花山自治区
副会長	鈴木 政彦	下山商工会
会 計	酒井 保彦	地域学校共働本部
監 事	浅見 富士男	下山地域営農協議会
委 員	川合 保之	阿蔵自治区
委 員	鈴木 雅弥	大沼自治区
委 員	杉浦 義已	三巴自治区
委 員	高須 幸夫	田平沢自治区
委 員	安藤 文一	羽布自治区
委 員	加藤 幸峰	和合自治区
委 員	伊藤 裕一	里楽暮住しもやま会
委 員	河合 貴司	豊田市しもやま観光協会
委 員	川合 寿人	しもやま里山協議会
委 員	武藤 富保	基盤整備部会
顧 問	神谷 和利	愛知県議会議員
顧 問	深津 秀仁	豊田市議会議員

しもやまスマイルプラン《後期プラン》

令和8年3月

発行：下山地域まちづくり推進協議会
(事務局 豊田市役所地域活躍部下山支所)

豊田市大沼町越田和 37 番地 1

電話：0565-90-2111

メール：shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp